



V

開講科目とシラバス編

開講科目とシラバス編

1. 開講科目一覧

	科目コード	科目名	担当者	単位	開講日程		講義内容掲載ページ
第1群 エイジング社会の教養科目群	OG125	聖書と私	新井 美穂	2	秋学期	火4	48
	OG132	古典として読む旧約聖書	月本 昭男	2	春学期	月5	49
	OG139	新約聖書のイエス伝承に見る信仰と経験	廣石 望	2	夏期集中	9/11～13	50
	OG155	人類の来た道のりを測る	鈴木 正男	2	春学期	金4	51
	OG173	古典和歌のレトリック	加藤 睦	2	秋学期	月4	52
	OG102	東洋思想からの問い	松本 秀士	2	夏期集中	9/6、7、10	53
	OG117	ミュージアムを超えて	川口 幸也	2	秋学期	木4	54
	OG160	現代美術に親しむ	菊池 敏直	2	秋学期	水4	55
	OG175	歌が照らす人と社会	佐藤 壮広	2	春学期	火5	56
	OG141	地域創生を史的に考える 【人数制限 20名】	上田 信	2	夏期集中	8/7～9 (合宿2泊3日)	57
	OG121	テレビ経験の社会史	成田 康昭	2	秋学期	月5	58
	OG128	グローバル社会とメディアの使命	三浦 元	2	春学期	水5	59
	OG133	ジャーナリズムと法	服部 孝章	2	秋学期	水5	60
	OG212	歴史の中の学校教育	前田 一男	2	秋期集中	11/1、5、6	61
	OG171	Talking about Global Issues 【人数制限 25名】	DONOVAN,H.A.	2	秋学期	木4	62
第2群 コミュニティデザインとビジネス科目群	OG233	シニアが輝くライフスタイル	松田 智生	2	夏期集中	8/2、3、6	63
	OG239	プラチナ社会におけるアクティブシニア論	松田 智生	2	秋学期	火5	64
	OG226	修了生が語るアクティブシニアの生き方	坪野谷 雅之	2	春学期	月4	65
	OG237	シニアの資産運用と生活設計	安東 隆司	2	秋学期	火4	66
	OG223	食文化と地域活性化	秋野 晃司	2	夏期集中	8/7～9	67
	OG275	サステナブルコミュニティの思想と実践	大和田 順子	2	秋学期	火5	68
	OG245	環境保全とコミュニティ形成 【人数制限 40名】	永石 文明	2	夏期集中	8/25～27	69
	OG215	コミュニティの課題発見とメディア表現	浜田 忠久	2	春学期	火4	70
	OG219	ソーシャルビジネスの理論と実務	永沢 映	2	春学期	火5	71
	OG234	持続可能な社会と地域づくり	阿部 治	2	夏期集中	9/14、18、19	72
	OG229	アジアの生活と文化とNGOへの視座	倉沢 幸	2	夏期集中	9/3～5	73
	OG224	マイクロクレジットにおける自立支援	笠原 清志	2	夏期集中	9/14、18、19	74
	OG211	世界・日本経済図説を読む	田谷 禎三	2	秋学期	月5	75
OG260	暮らしに役立つ経済と金融	坪野谷 雅之	2	春学期	水4	76	
OG261	人間学としての経済思想	芳賀 和恵	2	夏期集中	8/2、3、6	77	

	科目コード	科目名	担当者	単位	開講日程		講義内容掲載ページ
第3群 セカンドステージ設計科目群	OG300	社会老年学	安藤 孝敏	2	春学期	金 4	78
	OG330	最後まで自分らしく	小谷 みどり	2	春学期	月 5	79
	OG180	心の変革	横山 紘一	2	春学期	火 4	80
	OG238	アドラー心理学を実践に活かす	箕口 雅博	2	秋学期	金 5	81
	OG315	セカンドステージの住まいづくり	甲斐 徹郎	2	夏期集中	8/21～23	82
	OG350	現在（いま）を生きるための健生学	堀 エリカ	2	秋学期	水 4	83
	OG138	食と健康の教養学	松山 伸一	2	春学期	水 5	84
	OG105	健康長寿とアンチエイジング	米井 嘉一	2	夏期集中	9/3～5	85
	OG360	高齢者の生活と介護保険	橋本 正明	2	夏期集中	9/6、7、10	86
	OG380	障害者とノーマライゼーション	河東田 博	2	秋学期	金 4	87
	OG100	セカンドステージと市民生活	渡辺 豊博	2	春学期	金 5	88
	OG306	俗世間と認識論	北山 晴一	2	秋学期	金 4	89
	OG302	「だまし」と「ウソ」の心理学	香山 リカ	2	夏期集中	8/23、24、28	90
	OG142	セカンドステージを楽しむ詩心・気心	渡辺 信二	2	秋学期	木 4	91
必修基幹科目	OG070	オムニバス講義「学問の世界」※	ゼミ担当教員	2	春学期	木 4	92
	OG400	本科ゼミナール・修了論文	黒木 龍三	4	通年	木 5	93
			鈴木 正男				
			成田 康昭				
			野田 研一				
			渡辺 信二				
			北山 晴一				
			栗田 和明				
	千石 英世						
	OG500	専攻科ゼミナール・修了論文	上田 恵介	8	通年	木 5	93
加藤 睦							
高橋 輝暁							
坪野谷 雅之							
			平賀 正子				

※本科生は必修科目になります。専攻科生は選択科目になります。

2. 講義内容（シラバス）

エイジング社会の教養科目群

科目コード	OG125	科目名	聖書と私	科目群	第1群
担当者	新井 美穂（アライ ミホ）				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・4時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	立教の建学の精神であるキリスト教に聖書をテキストにして、戸惑いや矛盾、疑問を大切にしながら、親しむことを目標にします。更に自分を見つめ、互いを生かし合う生き方の源泉を聖書から考えます。				
授業の内容	本講義は講義中心の「聖書」を通しての入門講座です。少し知的に、少し心に潤い、の時間です。前半は旧約聖書から新約聖書に至るイスラエル史を概観し、メシアを待望する民について理解します。後半は、福音書を中心にイエス・キリストの姿を繙き、聖書が投げかけて来る問いを探り、自分を見つめます。（授業はなまものです。グループワークを行う等、内容や形式は必要に応じて微修正を行います。）				
授業計画	第1回 キリスト教について（明治期のキリスト教の教派を中心に） 第2回 聖書について 第3回 イスラエルの歴史—出エジプトと十戒 第4回 イスラエルの歴史—王国成立と分裂 第5回 イスラエルの歴史—預言者 第6回 イスラエルの歴史—ユダ王国滅亡（バビロン捕囚） 第7回 イスラエルの歴史—ヘレニズム世界のもとで（バビロンからの帰還） 第8回 イスラエルの歴史—ヘレニズム世界のもとで（いわゆる中間時代） 第9回 イエス・キリストについて—イエスと律法 第10回 イエス・キリストについて—クリスマスを考えるその1 第11回 イエス・キリストについて—クリスマスを考えるその2 第12回 イエス・キリストについて—譬え話し又は奇跡物語 第13回 イエス・キリストについて—受難物語 第14回 イエス・キリストについて—復活物語				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	『聖書 新共同訳 続編付き』 日本聖書協会が望ましいのですが、お持ちの聖書で構いません。				
参考文献	木田献一、1999、『古代イスラエルの預言者たち』、清水書院。 池澤夏樹、2012、『ぼくたちが聖書について知りたかったこと』、小学館。				
その他（HP等）					

エイジング社会の教養科目群

科目コード	OG132	科目名	古典として読む旧約聖書	科目群	第1群
担当者	月本 昭男 (ツキモト アキオ)				
開講日程・時限	春学期・月曜日・5時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	旧約聖書は新約聖書とならぶキリスト教の聖書として読まれてきましたが、それ以前にユダヤ教の正典であり、イスラム教にも大きな影響を及ぼしました。この講義ではそのような旧約聖書の思想を人類の古典として学んでゆきます。				
授業の内容	旧約聖書は大小39の書物から成り立っています。そこには神話があり、歴史物語があり、詩歌があり、知恵の書があります。これを残した古代イスラエの民は古代西アジア文明地域の一角に歴史を刻んだ弱小の民でしたが、その彼らが旧約聖書にどのような思想と信仰を織り込んだのか、そしてそれが新約聖書やキリスト教へとどのように引き継がれていったのか、ときに東アジアや日本の思想と比較しながら、具体的に探ってゆきましょう。				
授業計画	第1回 旧約聖書の風土と歴史 第2回 天地創造物語にみる神、人間、自然 第3回 エデンの園の物語にみる人間観の諸相 第4回 ノアの洪水物語とその現代的意義 第5回 バベルの塔の文化史的背景と文明批判 第6回 民族の原点としてのエジプト脱出物語 第7回 モーセの十戒および社会法の特徴 第8回 歴史書にみる歴史叙述と歴史観 第9回 古代イスラエル預言者の社会批判 第10回 古代イスラエル預言者のメシア思想 第11回 旧約聖書にみる苦難の理解をめぐって 第12回 古代イスラエルにおける一神教の成立				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
テキスト	旧・新約聖書（どの訳でも可）。毎回持参してください。				
参考文献	月本昭男、『この世界の成り立ちについて』、ぶねうま舎。 月本昭男、『旧約聖書に見るユーモアとアイロニー』、教文館。				
その他（HP等）	聖書外資料は担当者が準備し、コピーを配布する。				

エイジング社会の教養科目群

科目コード	OG139	科目名	新約聖書のイエス伝承に見る信仰と経験	科目群	第1群
担当者	廣石 望 (ヒロイシ ノゾム)				
開講日程・時限	夏期集中9月11日、12日、13日 (10:00~17:00)			単位数	2単位
備考					
授業の目標	新約聖書のイエス伝承を手がかりに、イエスの「神の王国」思想と実践における人間経験の諸相を探ることで、キリスト教理解を深めるとともに、その現代的な意義について考察する。				
授業の内容	復活、歴史(物語)、儀礼、文化、啓示、倫理、メタファーなどの切り口から、イエス伝承をとりあげ、現代的な問いの視点を踏まえつつ解釈する。				
授業計画	<p>第1日 第1回 命の限界と「復活」(1)</p> <p>第2回 同(2)</p> <p>第3回 歴史と生の方向定位(1)</p> <p>第4回 同(2)</p> <p>第5回 儀礼とは何か?(1)</p> <p>第2日 第6回 同(2)</p> <p>第7回 文化と宗教(1)</p> <p>第8回 同(2)</p> <p>第9回 啓示と経験(1)</p> <p>第10回 同(2)</p> <p>第3日 第11回 倫理と宗教(1)</p> <p>第12回 同(2)</p> <p>第13回 メタファーの言語と宗教(1)</p> <p>第14回 同(2)</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	『聖書 新共同訳』その他の日本語聖書翻訳				
参考文献	廣石望、2011、『信仰と経験——イエスと〈神の王国〉の福音』、新教出版社。 Hans Weder. 1986. Neutestamentliche Hermeneutik. Zürich: Theologischer Verlag.				
その他(HP等)					

エイジング社会の教養科目群

科目コード	OG155	科目名	人類の来た道のりを測る	科目群	第1群
担当者	鈴木 正男 (スズキ マサオ)				
開講日程・時限	春学期・金曜日・4時限				2単位
備考					
授業の目標	現生人類(学名=ホモ・サピエンス、“賢いヒト”)は、過去を測り、現在を分析し、未来を予測する。そして後に続く世代に負の遺産を残すことを避けるために、環境の不可逆的劣化を監視し続ける。人類科学の最新の成果を学ぼう。				
授業の内容	<p>宇宙(138億年)、地球(46億年)、人類(700万年)の歴史に比べれば、現生人類(30万年-1万5千世代)の歴史はほんの一瞬に過ぎないが、この間、我々の祖先は、第2次出アフリカ(10万年前)を経て、全地球上に拡散し、脱毛、皮膚色や体構(プロポーション)の変化が起こり、多様性を獲得してきた。</p> <p>その一方で、“人間の疎外”によって“種”としての存続の危うさも指摘され始めている。最新の人類科学の成果や良質な文明論を学ぶ機会として欲しい。</p>				
授業計画	<p>第1回 DNAはヒトの進化に関する多くの謎を解き明かし続けている</p> <p>第2回 ヒトの進化は2段階—ヒト化とサピエンス化(大脳化)</p> <p>第3回 日本人のルーツ—日本人はどこから来たのか?</p> <p>第4回 対立するヒトの進化の図式—種化・特殊化説と遺伝的連続説</p> <p>第5回 第一次出アフリカ、8回の氷河期—地球は寒冷化に向かっている</p> <p>第6回 30万年前に登場した現生人類はネアンデルタール人と交雑した</p> <p>第7回 ヒトは熱帯起源の動物—第二次出アフリカ、拡散・適応・多様性</p> <p>第8回 多様性形成詳説—身長1mのフローレス人の進化史上の位置づけ</p> <p>第9回 イースター島モアイ文明の興隆と衰退</p> <p>第10回 J・ダイヤモンド—『文明崩壊(上・下)』、『昨日までの世界』</p> <p>第11回 B・ロンボルグ—『懐疑的環境論者』、『地球と一緒に頭を冷やせ!』</p> <p>第12回 Y・N・ハラリー—『サピエンス全史(上・下)』</p> <p>第13回 3.11—世代(20年)を超えた責任、立大原子力研究所の原子炉の現状</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	授業時間にプリントを配付する。また、Blackboardにアップロードする。				
参考文献	『文明崩壊(上/下)』、『昨日までの世界(上/下)』、『懐疑的環境論者』、『地球と一緒に頭を冷やせ!』、『サピエンス全史(上/下)』、文庫化されているものもある。				
その他(HP等)	質問に対する回答などBlackboardにアップロードされるので注意すること。				

エイジング社会の教養科目群

科目コード	OG173	科目名	古典和歌のレトリック	科目群	第1群
担当者	加藤 睦 (カトウ ムツミ)				
開講日程・時限	秋学期・月曜日・4時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	古典和歌に用いられる枕詞・序詞・掛詞・縁語などのレトリックについての理解を深める。物事を率直に飾らず表現する傾向が強い、現代の表現のありようとの比較検討も行う。				
授業の内容	古典和歌においては、意味を読み取ることと、表現の面白さを味わうことが、ともに大切である。平安時代～鎌倉時代に詠まれた和歌を中心に、できるだけ多くの古典和歌の作品を読み解きながら、古典和歌に用いられるレトリック（修辞技法）についての理解を深めていきたい。まず、古典和歌についての概説講義を通して、主題ごとに古典和歌についての一般的な知識を確認する。その後、個々の技法について、具体的な作品の読解作業を行いながら解説していく。				
授業計画	第1回 古典和歌概説1 四季の歌について 第2回 古典和歌概説2 恋の歌について 第3回 古典和歌概説3 雑の歌について 第4回 句切れについて 第5回 倒置・体言止めについて 第6回 枕詞について 第7回 序詞について1 第8回 序詞について2 第9回 掛詞について1 第10回 掛詞について2 第11回 縁語について1 第12回 縁語について2				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト					
参考文献					
その他 (HP 等)					

エイジング社会の教養科目群

科目コード	OG102	科目名	東洋思想からの問い	科目群	第1群
担当者	松本 秀士 (マツモト ヒデシ)				
開講日程・時限	夏期集中9月6日、7日、10日 (9:30~16:30)			単位数	2単位
備考					
授業の目標	東洋思想の中でも、今日に脈々と流れ続ける中国の伝統的思想を、漢詩・故事・説話・諸説等からひろく取り上げながら読み解きたい。とくに、現代社会を支配するいわゆる西洋的価値観を乗り越えた上での本質的な意義を探究したい。				
授業の内容	中国に古くより伝わる漢詩・故事・説話・諸説等を中国語原文（古代漢語・現代漢語）で講読しながら、その根底にある伝統的思想の特質を読み解いていく。とくに、現代中国語（現代漢語）の発音での音読を交えながら、直読直解的に読むことで、その独特の思考的リズムを感じながら、中国語を構成する漢字一文字一文字が本来備える思想的重みを体得したい。広く古今の様々な中国語文章を原語にて扱うが、漢文や中国語の学習歴は問わない。				
授業計画	第1日 第1回 ガイダンス 第2回 現代中国語について（概況） 第3回 現代中国語について（発音・語彙・文法） 第4回 現代中国の社会生活について 第5回 現代中国を流れる伝統的思想について 第2日 第6回 漢詩を読む（五言絶句編） 第7回 漢詩を読む（七言絶句編） 第8回 古代中国の諸説を読む（神話編） 第9回 古代中国の諸説を読む（道徳編） 第10回 古代中国の諸説を読む（身体編） 第3日 第11回 古代中国の諸説を読む（養生編） 第12回 古代中国の諸説を読む（本草編） 第13回 古代中国の諸説を読む（格言編） 第14回 総括 ＊ゲストスピーカーを予定している				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
テキスト	随時、資料を配布。				
参考文献	劉月華他、2001、『実用現代漢語語法』、商務印書館。王力、1962、『古代漢語』、中華書局。姜国柱他、2011、『中国思想通史』、武漢大学出版社。他				
その他（HP等）					

エイジング社会の教養科目群

科目コード	OG117	科目名	ミュージアムを超えて	科目群	第1群
担当者	川口 幸也 (カワグチ ユキヤ)				
開講日程・時限	秋学期・木曜日・4時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	展示という営みを多角的に捉え、博物館、美術館の歴史を振り返り、さらに今後の在りようを展望します。				
授業の内容	まず、モノや美術品を展示するという行為を多様な視点から捉えなおし、その特質を明らかにします。次に、西洋はもとより、アジア、アフリカを含めた地域にも目配りしながら、近代におけるミュージアムの歴史を個別に振り返り、それらがどのような役割を担ってきたのかを考えます。そして、急激に変化する世界にあって、今後、ミュージアムには何が期待されるのかを展望します。				
授業計画	第1回 展示というかたりの行為 第2回 足もとのオリエンタリズム 第3回 16世紀の珍品陳列室 第4回 17世紀の王侯貴族のギャラリーとウィーン美術史美術館 第5回 博物学と博物館—大英博物館の誕生 第6回 ルーヴル—美術館の誕生 第7回 ロンドンとパリ 第8回 民族学と博物館 第9回 アメリカのミュージアム—ホワイトキューブと近代美術 第10回 東京とソウル 第11回 地域社会とミュージアム(1)—北と南 第12回 地域社会とミュージアム(2)—恐竜と現代美術 第13回 アジア、アフリカで 第14回 ミュージアムという居場所—流動化する世界の中で				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	特になし。毎回、配布物を用意します。				
参考文献	キャロル・ダンカン、2011、『美術館という幻想—儀礼と権力』（川口幸也訳）、水声社。				
その他（HP等）					

エイジング社会の教養科目群

科目コード	OG160	科目名	現代美術に親しむ	科目群	第1群
担当者	菊池 敏直 (キクチ トシナオ)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・4時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	科目名どおり「現代美術に親しむ」です。「親しむ」が「常に接してなじむ」ということであれば、現代美術や作品がいつでも“いま・ここ”にあれば良い、ということになります。が…				
授業の内容	授業目標が明解であれば内容は自ずと整理されるはず。ですが、そも『現代美術』というものの実態？や認知度、定義の有無、「親しむ」という目標の到達点等々、疑問ばかり。でそれらの回答を得るための土俵づくりから始めましょう。土俵とは、自ら“問う”こと。授業は『質問』の回答を捜すように、「本当にうまく質問できたら、もう答えは要らないのですよ。(略)」という小林秀雄の言葉に習って進めましょう。				
授業計画	第1回 図工や美術で習ったこと 第2回 美術作品が表すものは、表現ってなに 第3回 起きぬけに見たもの、見えたものは 第4回 『ゲンダイ』っていつ、『ビジュツ』の起源は 第5回 具象画の『グショウ』って、スマホはリアルか 第6回 20世紀美術 略説① 第7回 鏡は見えるか、水のカタチはどんな形か 第8回 アーティストの考えていることは 第9回 『カンガエナイ』アートはあるか 第10回 『DADA』知っていますか 第11回 20世紀美術 略説② 第12回 美術学校は『最期の秘境』なのか 第13回 20世紀美術 略説③ 第14回 私と社会にとって芸術の存在意義をまじめに考えてみる *テーマが前後すること有				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
テキスト					
参考文献	暮沢剛己、『現代美術のキーワード100』、ちくま新書。				
その他 (HP等)					

エイジング社会の教養科目群

科目コード	OG175	科目名	歌が照らす人と社会	科目群	第1群
担当者	佐藤 壮広 (サトウ タケヒロ)				
開講日程・時限	春学期・火曜日・5時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	明治から平成までの、童謡、唱歌、歌謡曲、Jポップなど流行歌を題材として、それぞれの作品が照らす時代状況や聴き手の心性を考察します。受講生が耳にしてきた数々の歌とそれぞれの人生との繋がりも語りながら、テーマに迫ります。				
授業の内容	幼少期には童謡、学童期には唱歌、青年期には歌謡曲、フォーク、洋楽、やがて演歌などと、我々は聴いてきた歌を通して自身の心性を振り返ることができます。また、流行歌には時代状況が刻まれており、それらの歌を通して人そして社会を考察することもできます。授業ではできるだけ多くの歌と一緒に聴き、受講生の皆さんの「記憶の扉」を開けて、歌にまつわる社会史・個人史について語りながら、豊かな歌の魅力を講じていきます。				
授業計画	第1回 歌と社会史：歌が喚起する記憶・歌と「メモリースケープ」 第2回 文部省唱歌と童謡：日本人の心情 第3回 1945以前の流行歌・民衆の歌 第4回 戦後のジャズブーム：江利チエミ、美空ひばり 第5回 望郷歌謡と戦前のリバイバル 第6回 高度経済成長期と都会調歌謡 第7回 ビートルズ来日とGS、日本のロック 第8回 フォークミュージック：森山良子、マイク真木、かぐや姫ほか 第9回 ニューミュージック：吉田拓郎、井上陽水、オフコースほか 第10回 テレビとアイドル歌謡：御三家、新御三家、ジャニーズアイドル 第11回 女性シンガーと日本社会：中島みゆき、松任谷由実ほか 第12回 演歌と日本の「こころ」：北島三郎、美空ひばりほか 第13回 歌われる「東京」：歌からまちを視る 第14回「わたしのこの一曲」—歌が照らすわたしとその時代				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
テキスト	特に使用しません。関連資料は講義時に配布します。				
参考文献	北中正和、2003、『増補にほんのうた 戦後歌謡曲史』、平凡社。 田家秀樹、2004、『読む J-POP 1945-2004』、朝日新聞社。				
その他 (HP 等)					

エイジング社会の教養科目群

科目コード	OG141	科目名	地域創生を史的に考える	科目群	第1群
担当者	上田 信 (ウエダ マコト)				
開講日程・時限	事前授業 7月26日、 夏期集中 8月7日、8日、9日 (合宿2泊3日)			単位数	2単位
備考	人数制限科目 (定員20名)				
授業の目標	少子高齢化が進むなかで人口が激減し、存続の危機が予測される地方自治体が少なくありません。一方で「消滅してなるものか」と動き始めた自治体も数多くあります。その実情を現場で、地域住民と交流しながら学び考えます。				
授業の内容	合宿を行う西伊豆町は、駿河湾に面し、天城山を背にし、海・山・里・町を兼ね備えた地域です。奈良時代には塩漬けたカツオを平城京に送ったとの記録もあるなど歴史的にも興味深い土地です。また、人形三番叟などの芸能も個性を放っています。しかし、現在は8千人あまりの人口が、2014年には半減すると予測されています。こうした状況に対して、町ではさまざまな取り組みが行われています。その努力を学び、将来に向けた提言をまとめていきます。				
授業計画	<p>事前授業 第1回 地域創生に向けた取り組み 第2回 西伊豆町の現状と課題</p> <p>第1日 第3回 西伊豆町「まちづくり」のあゆみ 第4回 郷土料理の伝統と技 第5回 フィールドワークの進め方を考える 第6回 ワークショップ1「地域創生の必要性を考える」</p> <p>第2日 第7回 伝統産業：鯉節・塩鯉の実地研修 第8回 田子地区でのフィールドワーク 第9回 地元グルメの魅力 第10回 西伊豆の歴史と文化 第11回 地域おこし協力隊の活動について 第12回 フィールドワークの成果を振り返る</p> <p>第3日 第13回 仁科地区でのフィールドワーク1 第14回 ワークショップ2「地域創生の可能性を考える」 *天候などの状況により、順番などを変更する可能性があります</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	なし				
参考文献	事前授業時に指示します。				
その他 (HP等)	現地までの往復交通費・食材費・レンタル寝具代金などは、自己負担。 西伊豆町役場公式サイト https://www.town.nishiizu.shizuoka.jp/				

エイジング社会の教養科目群

科目コード	OG121	科目名	テレビ経験の社会史	科目群	第1群
担当者	成田 康昭（ナリタ ヤスアキ）				
開講日程・時限	秋学期・月曜日・5時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	自分自身をふり返って、社会や文化とのつながりの中で「自分とは」を問う方法に「自分史」がある。この授業では、子どもの頃から見てきた「テレビ」の経験を記憶の中から拾い出し、それを鍵として自分史を再構成する。				
授業の内容	1953年に登場し、1965年には90%の世帯に普及したテレビは、多様で大量のテレビ経験を私たちの中に作り出した。私たちの個人の生活史、家族史、世代の共通体験、さらに事件や社会的出来事は、忘れられない番組と繋がりながら集積的なテレビの記憶を形づくっている。こうしたテレビ経験は自己の成長、熱中した夢、人生の経験、家族の関係などと結びつきながら形成されている。この授業では、そのようなテレビ経験を語り合い、自分自身を見直す1つの視点をつくる。				
授業計画	第1回 初回説明：テレビ経験とは何か 第2回 東京オリンピック 第3回 事件を中継するテレビ 第4回 街頭テレビから「我が家初」のテレビ 第5回 子供の夢（第1回小レポート提出） 第6回 テレビ経験と自分史（1） 第7回 バラエティ番組 第8回 アメリカン・ホームドラマが残したもの 第9回 アメリカン・アクション、西部劇 第10回 プロ野球とテレビ 第11回 連続ドラマ（第2回小レポート提出） 第12回 テレビ経験と自分史（2） ＊「小レポート」とは、2000～3000字で、自分のテレビ経験を記すものです				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト					
参考文献	萩原滋編、2013、『テレビという記憶』、新曜社。				
その他（HP等）					

エイジング社会の教養科目群

科目コード	OG128	科目名	グローバル社会とメディアの使命	科目群	第1群
担当者	三浦 元 (ミウラ ハジメ)				
開講日程・時限	春学期・水曜日・5時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	メディアの歴史や人権との係わりそれに報道の役割などの基本を学び取ると同時に技術革新による番組制作の現状を把握する。受講生が「自ら考え・判断し・答えを導き出す」能力や「感想や意見を記述する」能力をより一層高める。				
授業の内容	メディアを学ぶ「メディアリテラシー」はグローバル化する社会と深く係わる総ての現代人にとってのリベラル・アーツ。流動的・不透明な世界の政治・経済情勢を解説。2020年東京五輪を前に、急速に進展するスーパーハイビジョン(4K・8K)放送やVR・AR技術、コンピュータ技術、スマホ展開活用の「新映像時代」を解析する。放送と通信が文字通り融合する中で、地球的規模の課題から身近な消費生活に至るまで関心の高い番組などを取り上げメディアの舞台裏を説く。				
授業計画	<p>第1回 ガイダンス～なぜ晴れた空は青く夕焼けは紅い? Whyの大切さ～</p> <p>第2回 映像革新～立教出身女性PD制作ウサイン・ボルトの肉体の秘密～</p> <p>第3回 五輪放送の舞台裏～スポーツ放送権料高騰と放送イノベーション～</p> <p>第4回 社会の危機対応～東日本大震災と関東大震災～</p> <p>第5回 ハゲワシと少女～生命か報道かピューリッツァ賞カメラマン苦闘～</p> <p>第6回 ハンセン病めぐる報道・番組～差別とどう向き合うか～</p> <p>第7回 脳と肉体の科学解析～脅威の平衡感覚・男子体操内村航平の世界～</p> <p>第8回 世界の人魚姫～ロシアのシンクロナイズドスイミングの機密～</p> <p>第9回 大河ドラマ～豊かな放送文化の創造～</p> <p>第10回 もう一度作りたい～RKB毎日木村栄文の執念～</p> <p>第11回 CG活用の世界～ディズニーアニメヒットの舞台裏～</p> <p>第12回 ドキュメンタリー冬の時代～“現代のベートーヴェン”の罪～</p> <p>第13回 国際化時代の放送サービス～世界初の大王イカの国際共同制作～</p> <p>第14回 最先端技術AI(人工知能)の光と影</p> <p style="text-align: center;">*社会の動向や関心事によって内容を変更する場合もある</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	講義では使用しないがNHK放送文化研究所、2002、『放送の20世紀』、NHK出版は参考になる				
参考文献	吉岡友治、2013、『いい文章には型がある』、PHP研究所。 望月和彦、2003、『ディベートのすすめ』、有斐閣。適宜紹介				
その他(HP等)	特になし				

エイジング社会の教養科目群

科目コード	OG133	科目名	ジャーナリズムと法	科目群	第1群
担当者	服部 孝章 (ハットリ タカアキ)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・5時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	特定秘密保護法、安保法制、共謀罪と安倍政権下で戦後民主主義の破壊が進み、「憲法改正」「憲法改悪」が政治日程にのぼってきた。情報民主主義が根本から試されている。報道機関そして情報主権者としての私たち市民の責務を検討したい。				
授業の内容	NHKをはじめとする放送メディアの「憲法」そして人権への視座はゆらぎ、ジャーナリズム機能を十分に果たしているとは言いがたい。政権と行政機関、政権と報道機関の「忖度」関係が強くなり、これまで繰り返された「圧力」「介入」はもはや必要なくなるほど、報道機関の権力監視姿勢が弱くなり、一方、市民の新聞テレビ雑誌書籍への接触は急激に減っている。報道メディアを中心に経営の弱体化も鮮明になってきた。この授業では、可能な限り文書・映像資料などを提示し、法・憲法とジャーナリズムの関係を凝視し、情報民主主義を模索したい。				
授業計画	第1回 技術の進捗と記憶の外脳化 第2回 メディア産業政策の変遷 第3回 個人情報保護・特定秘密保護法・安保法制・共謀罪 第4回 差別表現とヘイトスピーチ—スマホと「若者・年長者」 第5回 討論 IT時代に生きて 第6回 放送制度の変遷 第7回 アメリカ放送制度との比較 第8回 映画文化の変貌 第9回 市民の情報消費支出 第10回 NHK受信料と市民 第11回 映像表現に見る差別 第12回 デジタルメディアの匿名化 第13回 憲法21条と {公共の秩序}：明治憲法と「法律ノ範囲内デ」 第14回 総括 討論				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	講義時に指示する				
参考文献	田島泰彦編、2017、『物言えぬ時代がやってくる—共謀罪とメディア』、花伝社。				
その他 (HP 等)					

エイジング社会の教養科目群

科目コード	OG212	科目名	歴史の中の学校教育	科目群	第1群
担当者	前田 一男 (マエダ カズオ)				
開講日程・時限	秋期集中 11月1日、5日、6日 (10:00～17:00)			単位数	2単位
備考					
授業の目標	近世日本の教育から敗戦直後までを対象にしながら、特に戦時期に焦点を当てながら、現在の教育状況が、近代日本の歴史的な展開の上に成り立っていることを理解し、教育を歴史的に考える観方や方法を学習する。				
授業の内容	当たり前のように通っている「学校」も、実のところ政治や経済の影響を受けながら、独自の歩みを歴史に刻んできた。近代社会における教育の役割と機能を明らかにしつつ、歴史的な方法によって戦後73年目を迎えた「教育の現在」を発見する試みを行っていききたい。教育理念と学校制度の展開のうえに教育を位置づけながら、特に戦争と教育とのありようについては、受講者とも共同で考えていきたい。				
授業計画	第1回 ガイダンスと全体的な説明 第2回 近世の教育―特に手習塾に注目して 第3回 明治初年の教育―近代化への始動 第4回 学問と教育の関係史(1)―森有礼の役割― 第5回 学問と教育の関係史(2)―南北朝正閏問題― 第6回 国民統合と「知」の再配分―教育勅語― 第7回 近代学校の成立とその歴史的 성격 第8回 近代学校批判の展開―大正自由教育― 第9回 立教大学野球部と戦争への道 第10回 総力戦体制と教育―錬成教育と一人の教師のあゆみ― 第11回 総力戦体制の崩壊―学童疎開を中心に― 第12回 敗戦と教育(1)―戦争孤児の戦後史― 第13回 敗戦と教育(2)―未完の戦後教育改革― 第14回 敗戦と教育(2)―未完の戦後教育改革―				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	その都度プリントを配布するので、特に指定しない。				
参考文献	寺崎・前田編、『日本の教師 歴史の中の教師ⅠⅡ』、ぎょうせい。 片桐・木村編、『教育から見る日本の社会と歴史』、八千代出版。				
その他 (HP 等)					

エイジング社会の教養科目群

Course number	OG171	Title	Talking about Global Issues	Course group	I
Instructor	DONOVAN, H. A. (H.A. ドノヴァン)				
Period	Autumn, Thursday, 4th period			Credits	2
Remarks	Number of students will be limited within 25.				
Course objectives	Students will utilize and develop English discussion skills on international issues relevant to Japan, the US, and the world. Some reading and research of topics will be conducted and brief individual and group spoken reports or presentations will be given.				
Course description	This course is a chance to practice using spoken English to communicate with others on issues that effect society both in Japan and worldwide. Topics will include environment and business, history, arts and culture, international cooperation, and global issues relevant to class participants. Some short presentations will be given by the instructor, not so much for content instruction as for providing jumping off points for students to express their own knowledge and opinion on the subjects presented.				
Class schedule	<p>Lesson 1: Introduction to the class, the instructor, and to the class members</p> <p>Lesson 2: Introduction of course materials, including articles and podcasts</p> <p>Lesson 3: Business and the Environment short lecture and discussion</p> <p>Lesson 4: Guest lecture (date may be changed)</p> <p>Lesson 5: Preparation of first group discussion/presentation activity</p> <p>Lesson 6: History of Rikkyo University and the NSKK</p> <p>Lesson 7: Group discussion/presentation activity</p> <p>Lesson 8: Group discussion/presentation activity finish and follow-up</p> <p>Lesson 9: Follow-up on group presentations, introduction of final project</p> <p>Lesson 10: Introduction of study using news podcasts</p> <p>Lesson 11: Presentation of topics based on news podcasts</p> <p>Lesson 12: Group work on final projects</p> <p>Lesson 13: Final project presentations by groups</p> <p>Lesson 14: Follow-up on final projects and wrap up session</p> <p>* Schedules may change, especially guest lectures.</p>				
Evaluation	Attendance and class participation including group projects.				
Textbooks	The instructor will provide articles and handouts.				
Readings	Several readings will be distributed by the instructor, as will be links to podcasts.				
Other Informations	It is hoped that students will be willing to suggest their own topics and present their ideas to others.				

コミュニティデザインとビジネス科目群

科目コード	OG233	科目名	シニアが輝くライフスタイル	科目群	第2群
担当者	松田 智生 (マツダ トモオ)				
開講日程・時限	夏期集中 8月2日、3日、6日 (10:00～17:00)			単位数	2単位
備考					
授業の目標	活力ある高齢社会で輝くシニアのあり方を、首都圏のアクティブシニアタウンと茨城県の笠間市をケースにフィールドワーク中心に、アクティブシニアのライフスタイルを考察し、実践的な授業を展開する。				
授業の内容	最初の二日間は、アクティブシニアタウンの居住者、事業者及び笠間市の二地域居住者、移住者、笠間市役所、シニアが運営するNPOとの意見交換を中心に、本テーマの背景や課題や共通化できるポイントを理解する。最終日は、視察の振り返りとグループ討議を踏まえて、これからのアクティブシニアのライフスタイルへの示唆と提案を発表する。				
授業計画	<p>第1日 第1回 アクティブシニアタウン設立の経緯 第2回 施設の特徴 (ハード、ソフト) 第3回 居住者の特徴の把握 第4回 運営の課題の抽出 第5回 アクティブシニアのコミュニティへの示唆・提案</p> <p>第2日 第6回 笠間市の直面する課題の理解 第7回 地方創生の政策の考察 第8回 現地住民に学ぶ 第9回 二地域居住者・移住者に学ぶ 第10回 笠間市で輝くシニアの示唆・提案</p> <p>第3日 第11回 アクティブシニアタウンの振り返りと提言 第12回 笠間市の振り返りと提言 第13回 グループ討議 第14回 発表</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	授業のなかで適宜指示する				
参考文献	松田智生、『日本版 CCRC がわかる本』、法研。				
その他 (HP 等)	三菱総合研究所 プラチナ社会センター 松田智生 研究員紹介 http://www.mri.co.jp/company/staff/detail/profile_0225.html				

コミュニティデザインとビジネス科目群

科目コード	OG239	科目名	プラチナ社会におけるアクティブシニア論	科目群	第2群
担当者	松田智生（マツダ トモオ）				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・5時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	活力ある高齢社会を示す「プラチナ社会」において、アクティブシニアが いかに社会や多世代と共生して活躍するか、大学のアカデミックな視点と ビジネスの視点を交えながら、RSSCらしいアクティブシニア論を示し討 議を深める。				
授業の内容	次の計画に沿って、「三菱総合研究所プラチナ社会センター」との連携をベ ースに、基本的講義と国内外の臨場感のあるケース・スタディ、受講生のワー クショップ（グループディスカッションと発表）の組み合わせ、ゲストス ピーカーを招請する等、研究・演習・実践的な活動を展開する。講義のフィ ードバックを行い、資授業の理解度や進捗状況を把握しながら有効に進める。				
授業計画	第1回 プラチナ社会総論（授業ガイダンスを含む） 第2回 アクティブシニアと新たな市場 第3回 アクティブシニアと新たな大学 第4回 アクティブシニアと新たな働き方 第5回 アクティブシニアの挑戦に学ぶ 第6回 アクティブシニアのコミュニティデビュープラン作成 第7回 アクティブシニアのコミュニティデビューのプラン発表 第8回 海外に学ぶアクティブシニアのライフスタイル 第9回 アクティブシニアと多世代交流 第10回 アクティブシニアによるまちづくり 第11回 アクティブシニアと地方創生 第12回 アクティブシニアと大学連携型コミュニティ グループ研究① 第13回 アクティブシニアと大学連携型コミュニティ グループ研究② 第14回 グループ研究のまとめと発表会・講評 *ゲストスピーカーは適宜招請予定				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	講義の都度レジュメ等を配布				
参考文献	松田智生、『日本版 CCRC がわかる本』、法研。				
その他（HP等）	三菱総合研究所 プラチナ社会センター 松田智生 研究員紹介 http://www.mri.co.jp/company/staff/detail/profile_0225.html				

コミュニティデザインとビジネス科目群

科目コード	OG226	科目名	修了生が語るアクティブシニアの生き方	科目群	第2群
担当者	坪野谷 雅之 (ツボノヤ マサユキ)				
開講日程・時限	春学期・月曜日・4時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	RSSCは2018年度に創立10周年を迎えて、約1,000名に達する修了生の個人やグループでのアクティブな活動をトレースすることは、これから私達の生き方やRSSCのあり方に貴重な指針とヒントを得る機会である。				
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 修了生から個人的なキャリアや特技・趣味、RSSCでの学びと人的ネットワークを活かした、社会交流や社会貢献活動の多様な事例を発表願う。 2. 質疑応答やグループディスカッションを通じ、活動立上げの苦労、具体的運営と成果、今後の課題を理解する。タイムリーなフィードバックも行う。 3. その結果をRSSC同窓会ホームページに掲載する、小冊子にまとめる等広く広報に資する。 				
授業計画	<p>第1回 基調講義「アクティブシニアの多様な生き方を探る」(担当教員)</p> <p>第2回 事例発表「地域育児ママの応援」「地域の子供によりそう」(2件)</p> <p>第3回 事例発表「シニアのコミュニティデビュー支援講座と実演」(1件)</p> <p>第4回 事例発表「限界集落の活性化」「居住地のまちづくり」(2件)</p> <p>第5回 事例発表「地元観光ガイド」「茶の湯同好会の主宰」(2件)</p> <p>第6回 (グループディスカッションとまとめ・発表会)</p> <p>第7回 事例発表「進学支援」「東日本大震災支援」(2件)</p> <p>第8回 事例発表「アクティブシニアの再雇用」「創業と経営」(2件)</p> <p>第9回 ゲストスピーカー「NPO設立支援」「創業サポート」(2件)</p> <p>第10回 事例発表「がん患者の励ましの全国講演活動」(1件)</p> <p>第11回 (グループディスカッションとまとめ・発表会)</p> <p>第12回 授業の総括と感想文の作成</p> <p style="text-align: center;">*修了生等の都合で変更もありうる</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	授業での発表者による資料等を適宜配布する。				
参考文献	授業の中で適宜紹介する。				
その他 (HP 等)					

コミュニティデザインとビジネス科目群

科目コード	OG237	科目名	シニアの資産運用と生活設計	科目群	第2群
担当者	安東 隆司 (アンドウ リュウジ)				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・4時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	資産運用は販売者と投資家(消費者)の知識の差が大きな課題である。知っていれば得する反面、知識が不足しているために、投資詐欺やコスト高の運用を行う事例も多い。資産運用の実践の知識を平易に投資家・消費者目線で考察する。				
授業の内容	以下の授業計画に沿って、実際に広く世の中にある資産運用と保全の実例、生活の設計、社会貢献事例を適宜紹介しながら、基礎的な経済や社会の実務知識をできるだけ平易な言葉を用いて講義し、金融を使いこなす力(金融ケイパビリティ)、金融経済知識の向上を展開する。主体的な授業への参加、双方向のコミュニケーションを重視する。原則質問時間の設定、テーマの区切りごとにグループディスカッションと発表会の開催を予定する。				
授業計画	第1回 日本と米国の資産運用と資産保全、生活設計の違い 第2回 日本の運用業界のビジネスモデル考察 第3回 販売者の利益相反問題と顧客本位の可能性考察 第4回 プライベートバンク(富裕層執事)の歴史と日本・世界との比較 第5回 (グループ発表会～金融機関の消費者目線と利益相反) 第6回 投信、ラップ(運用一任)、ETF(上場投信)等の商品特性の研究 第7回 NPO・NGO・ふるさと納税活用による社会貢献事例研究 第8回 シニアのNISA(少額投資非課税制度)の活用と課題 第9回 中長期運用と運用コスト、報酬体系の考察 第10回 (グループ発表会～金融知識:コスト意識と資産運用) 第11回 年金で運用デビューの危険性と投資詐欺事例 第12回 投資カテゴリーと分散投資の基礎知識 第13回 “顧客本位の業務運営”～金融庁が金融機関に求めるもの 第14回 (全体のまとめと発表会)				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	金融レポート、金融モニタリングレポート(金融庁)、金融広報中央委員会(知るぽると)、日本証券業協会発行の資料等を適宜配布する。				
参考文献	授業の中で必要に応じて適宜紹介する。				
その他(HP等)	金融庁、2017、「平成28事務年度金融レポート」。 http://www.fsa.go.jp/news/29/Report2017.pdf (2017年12月13日アクセス)				

コミュニティデザインとビジネス科目群

科目コード	OG223	科目名	食文化と地域活性化	科目群	第2群
担当者	秋野 晃司 (アキノ コウジ)				
開講日程・時限	夏期集中8月7日、8日、9日(10:00~17:00)			単位数	2単位
備考					
授業の目標	対象が多様で幅広い食文化研究の成果を把握することを目的とする。また、食物の社会的機能や社会的利用、あるいは食文化を通じた地域活性化の意義について、理解することを目的とする。				
授業の内容	食文化研究の成果の事例を取り上げて講義を行う。まず、食文化や食生活の概念を学びながら、食文化の特徴を把握する。特に、日本の食生活の特徴、食文化と経済活動、食物の社会的機能、共食文化、食物嗜好、食物の禁忌等の事例を取り上げて、食文化の世界を概説する。これらのことを踏まえて、食文化を通じた地域活性化の意義について講義を行う。				
授業計画	<p>第1日 第1回 講義の概要、食文化と食生活の概念と対象 第2回 食文化研究の視点と方法 第3回 日本の戦前の食生活 第4回 戦後の食文化・食生活の変容 第5回 「和食；日本人の伝統的食文化―正月を例として」を概説</p> <p>第2日 第6回 食文化と経済活動 第7回 食物の社会的機能（食物贈答・朝市） 第8回 共食文化Ⅰ（伝統的な共食儀礼・直会・酒宴） 第9回 共食文化Ⅱ（共食と個食、現代の飲食文化） 第10回 食物嗜好・食物の禁忌</p> <p>第3日 第11回 食文化の社会的・文化的利用（食文化と地域振興） 第12回 食文化を通じた地域活性化：農村地域の活性化 第13回 食文化を通じた地域活性化：食文化と観光 第14回 講義のふり返しレポートの作成</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	講義のプレゼンをコピーして配布する				
参考文献	講義中に関連の文献を提示する				
その他（HP等）					

コミュニティデザインとビジネス科目群

科目コード	OG275	科目名	サステナブルコミュニティの思想と実践	科目群	第2群
担当者	大和田 順子 (オオワダ ジュンコ)				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・5時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	本講義では、国内を中心に、各地の農山村地域の課題解決や、新たな価値創出（地域創生）の取り組みなど、サステナブルコミュニティの事例をもとに、関連する考え方（思想・理論）、現状・課題を考察し、構築手法について学びます。				
授業の内容	首都圏は食料やエネルギーの自給率が大変低く、私たちの暮らしは各地の農山漁村に支えられています。そうした農山漁村の多くが過疎・高齢化で持続可能性が危ぶまれています。一方、若者やシニア層の田園回帰、里地里山のめぐみ（農産物・森林・水、自然エネルギーなど）や歴史・文化を活用したコミュニティビジネスや、ローカル経済の創出が注目されています。授業は、サステナブルコミュニティに関する考え方を学ぶとともに事例研究をもとに討議を重ねます。				
授業計画	第1回 イン트로ダクション：受講者相互の問題意識・関心を知る 第2回 サステナビリティ、コミュニティ、SDGsとは何か 第3回 農山村・森林の現状、コミュニティの課題 第4回 「世界農業遺産」(FAO)と地域活性化① 第5回 「世界農業遺産」(FAO)と地域活性化② 第6回 人生100年時代のサステナブルなライフスタイル 第7回 都市コミュニティの現状と課題 第8回 企業と地域の連携によるCSV（共通価値の創造） 第9回 地域活性化事例：ゲストスピーカー 第10回 生物多様性、里地里山と私たちの暮らし 第11回 有機農業、生産者と消費者の新しい関係 第12回 サステナブルコミュニティデザイン検討 第13回 サステナブルコミュニティデザイン発表 第14回 サステナブルコミュニティの可能性				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	授業時に資料を配布します				
参考文献	大和田順子、2011、『アグリ・コミュニティビジネス』、学芸出版社。				
その他（HP等）	http://soratsuchi.com/owada/				

コミュニティデザインとビジネス科目群

科目コード	OG245	科目名	環境保全とコミュニティ形成	科目群	第2群
担当者	永石 文明 (ナガイシ フミアキ)				
開講日程・時限	事前ガイダンス 7月中旬予定 夏期集中8月25日、26日、27日 (10:00~17:00)			単位数	2単位
備考	人数制限科目 (定員 40名) / フィールドワーク				
授業の目標	里山と里川の自然再生を対象にしたフィールドワークを通して、どのような背景や課題があり、その課題解決に向けて地域の人々はどのように取り組んできたのかを探る。社会システムと生態システムを総合的に捉える考え方を身につける。				
授業の内容	最初の2日間は、「里川の自然再生とコミュニティ」(落合川/東久留米市)と「里山の自然再生とコミュニティ」(狭山丘陵/所沢市・入間市)のテーマで社会と生態の情報の洗い出し作業や現場でのヒアリングなど、質的フィールドワークを実施。最後の1日は学内での講義とワークショップでまとめる。(キーワード:自然再生、生態系、コミュニティ形成、パートナーシップ、コミュニケーション、ネットワーク形成、生態系サービス、生物多様性保全、主体形成、住民参画、祭礼)。				
授業計画	<p>第1日 第1回 落合川の川や都市環境、神社等への実感導入(現地を知る)</p> <p>第2回 里川の自然再生とコミュニティの紹介(現地ガイダンス)</p> <p>第3回 現場踏査による自然資源の抽出作業(自然要素の確認)</p> <p>第4回 現場踏査による社会システムの抽出作業(社会要素の確認)</p> <p>第5回 里川の自然再生とコミュニティ形成の関係について討議</p> <p>第2日 第6回 狭山丘陵の谷戸田と雑木林への実感導入(現地を知る)</p> <p>第7回 里山の自然再生とコミュニティの紹介(現地ガイダンス)</p> <p>第8回 現場踏査による自然資源の抽出作業(自然要素の確認)</p> <p>第9回 現場における社会システムの抽出作業(社会要素の確認)</p> <p>第10回 里山の自然再生とコミュニティ形成の関係について討議</p> <p>第3日 第11回 社会-生態システム論の講義</p> <p>第12回 里山と里川のグループに分かれてフィールドワークの整理</p> <p>第13回 ワークショップ(カテゴリー抽出とフレームワーク創り)</p> <p>第14回 グループ討議と成果発表(ポスター発表)</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	フィールドワーク時に当該地のパンフレット等を配布				
参考文献	永石文明、2009、「パートナーシップ社会とステークホルダー・エンゲージメント」『サステナビリティと本質的CSR』後藤・菌田監修、三和書籍、35-58。 永石文明、2016、「多様なコモンズを活かしたフィールドミュージアムの持続可能性」『立教大学社会学部研究紀要 応用社会学研究』No.58、199-211。				
その他 (HP等)					

V

開講科目とシラバス編

コミュニティデザインとビジネス科目群

科目コード	OG215	科目名	コミュニティの課題発見とメディア表現	科目群	第2群
担当者	浜田 忠久 (ハマダ タダヒサ)				
開講日程・時限	春学期・火曜日・4時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	コミュニティの課題の発見や解決に情報コミュニケーション技術 (ICT) やネットワークはどのように活用できるかを考える。また、デジタル技術を使った表現手法を学び、実習する。				
授業の内容	私たちが属している地域やコミュニティの課題の発見、共有、解決のためにデジタル技術をどう役立てることができるかを、デジタル・ストーリーテリングの手法を使って探求する。デジタル・ストーリーテリングとは、自分自身や家族、地域の思い出や出来事を、写真と声を使った映像物語 (デジタル・ストーリー) にしていく営みである。関心の近い受講生でグループを作り、ワークショップ形式で地域やコミュニティの歴史や課題をあぶりだし、作品を制作する。				
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 [講義] デジタル・ストーリーテリングとは & グループ分け 第3回 [講義] 市民のための調査研究と発表 第4回 [グループ・ディスカッション] 発表内容について 第5回 [グループ・ディスカッション] 発表内容について 第6回 [実習] ストーリー・サークルと物語の作成 第7回 [実習] 物語 (ナレーション) の録音、画像の選択 第8回 [実習] 映像編集 第9回 [実習] 映像編集 第10回 [発表と議論] (受講者発案によるテーマ) 第11回 [発表と議論] (受講者発案によるテーマ) 第12回 [発表と議論] (受講者発案によるテーマ) 第13回 [発表と議論] (受講者発案によるテーマ) 第14回 [発表と議論] (受講者発案によるテーマ)				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	なし				
参考文献	浜田忠久・小野田美都江、2003、『インターネットと市民』、丸善。 宮内泰介、2004、『自分で調べる技術』、岩波書店。				
その他 (HP 等)	受講者、講師間の連絡用ウェブサイトを開設する予定。				

コミュニティデザインとビジネス科目群

科目コード	OG219	科目名	ソーシャルビジネスの理論と実務	科目群	第2群
担当者	永沢 映 (ナガサワ エイ)				
開講日程・時限	春学期・火曜日・5時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	地域や社会の課題解決を事業として実施をするソーシャルビジネスやコミュニティビジネスについて、事例を学び、ノウハウを習得して実践に向けた具体的なプラン作成を進めていく。				
授業の内容	<p>以下の内容について学び、検討をし、形を作っていく。</p> <p>①ソーシャルビジネスの考え方や必要性について学ぶ ②ソーシャルビジネスの事例研究 ③ソーシャルビジネスのノウハウ ④課題の抽出から解決策の検討・意見交換（ワークショップ） ⑤事業計画書の作成と実践に向けた検討</p>				
授業計画	<p>第1回 ソーシャルビジネスを学ぶ 第2回 ソーシャルビジネスの事例研究1 第3回 ソーシャルビジネスの事例研究2 第4回 ノウハウの習得1 第5回 地域課題・ニーズを図るための演習 第6回 事業計画書作成に向けたポイントの整理 第7回 ソーシャルビジネスの事例研究3 第8回 ソーシャルビジネスの事例研究4 第9回 ノウハウの習得2 第10回 テーマごとのグループ討議1 第11回 テーマごとのグループ討議2 第12回 ソーシャルビジネスの事例研究5 第13回 実践に向けた事業計画の発表と意見交換 第14回 まとめ</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	資料は毎回配布				
参考文献	『書き込んで作る自分だけの起業ノート』、コミュニティビジネスサポートセンター。				
その他 (HP 等)	ソーシャルビジネス (経産省) http://www.meti.go.jp/policy/local_economy/sbcb/ NPO法人コミュニティビジネスサポートセンター http://cb-s.net/				

コミュニティデザインとビジネス科目群

科目コード	OG234	科目名	持続可能な社会と地域づくり	科目群	第2群
担当者	阿部 治 (アベ オサム)				
開講日程・時限	夏期集中 9月14日、18日、19日 (10:00～17:00)			単位数	2単位
備考					
授業の目標	人類にとって最大の課題である「持続可能な社会」や「持続可能な開発」への理解を深めるとともに持続可能な地域づくりに向けて行われている多様な事例を通して持続可能な社会づくりの活動の手法を学び、生活に生かす。				
授業の内容	まず「持続可能な社会」「持続可能な地域づくり」「国連持続可能な開発目標」などの基本事項の整理を行い、その後は多様な地域や主体による持続可能な地域づくりの具体的事例をもとに分析し、中でも特に主体的に参画する人づくりの視点から、主体的に楽しく、かつ持続的に参加できる持続可能な社会・地域づくりについての理解を深める。				
授業計画	<p>第1日 第1回 現代社会（地域）は持続不可能（導入1） 第2回 持続可能な開発とは（導入2） 第3回 国連持続可能な開発目標（SDGs）とは（導入3） 第4回 持続可能な地域づくりとは（導入4） 第5回 地方創生（地域創生）の動き（導入5）</p> <p>第2日 第6回 水俣市の事例 第7回 対馬市の事例 第8回 島根県海士町の事例 第9回 霞ヶ浦流域の事例 第10回 藤野町の事例</p> <p>第3日 第11回 北九州市の事例 第12回 池袋・豊島区の実例 / 海外の実例 第13回 持続可能な地域の担い手づくり 第14回 持続可能な社会・地域づくりに参加するために</p>				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
テキスト	阿部治編、2017、『ESDの地域創生力』、合同出版。				
参考文献					
その他（HP等）					

コミュニティデザインとビジネス科目群

科目コード	OG229	科目名	アジアの生活と文化とNGOへの視座	科目群	第2群
担当者	倉沢 幸 (クラサワ サイ)				
開講日程・時限	夏期集中 9月3日、4日、5日 (10:00～17:00)			単位数	2単位
備考					
授業の目標	アジアを語る時、開発論や政治経済的視点から論ずることが多い。しかし本講ではむしろ体験的アジア学に重点をおき、アジアの生活と文化の素顔と多様性を考察します。受講生の経験等を踏まえながら、広範囲に且つ自由に論考したい。				
授業の内容	授業では、東南アジアに焦点をあて、多角的に洞察します。具体的には、近代化と伝統、豊かさや貧困、社会環境と価値観、風土条件とライフスタイル、食文化、などを話題にし、生活と文化の特性や発展を考察します。さらに、講師の出身地であるバングラデシュの現状についても詳しく触れ、グラミン銀行やBRACという世界最大級のNGO・NPO活動の事例など論考します。同時に、新しい公共性を担うソーシャル・ビジネス／ボランティア活動の展開についても考えます。				
授業計画	<p>第1日 第1回 ガイダンスとイントロ、アジアの見方、距離感と親近感 第2回 文化をどう見るか / 映画「ブッシュマン」から考察 第3回 東南アジア世界の形成：風土条件とライフスタイル 第4回 現在の国家群、開発レベル 第5回 東南アジアの社会構造：家族と人間関係</p> <p>第2日 第6回 フィールドワーク（行き先は検討中。当日朝、現地集合） 第7回 遺跡から考察する文化：アンコールワット <VTR> 第8回 文化の伝播と創造：「醬」の技 <VTR> 第9回 屋台食文化—その背景と展開 <VTR> 第10回 伝統生活の事例—バリ島：生活環境、文化、そして豊かさ</p> <p>第3日 第11回 豊かさや貧困について／ディスカッション（グループ討議） 第12回 NGOの事例：BRACとフラミン銀行 第13回 バングラデシュ独立の背景：歴史・文化・宗教 第14回 [Part2]：貧困と生活改善の試み <スライド></p>				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	テキストを使用しません。講義概要等を配布します。				
参考文献	リーディングリストを配布する予定。				
その他（HP等）					

コミュニティデザインとビジネス科目群

科目コード	OG224	科目名	マイクロクレジットにおける自立支援	科目群	第2群
担当者	笠原 清志 (カサハラ キヨシ)				
開講日程・時限	夏期集中 9月 14日、18日、19日 (10:00～17:00)			単位数	2単位
備考					
授業の目標	アジア・アフリカ諸国における貧困者や支援の状況とNGOによる自立支援のプログラムを紹介する。				
授業の内容	<p>1) 貧者や女性の自立支援の困難さと問題点をバングラデシュの農村調査やマイクロクレジットによるNGOの取り組みを紹介しながら、受講生と共に考える。</p> <p>2) ソーシャルビジネスの具体的なケースを紹介する。(A・Bは構想案)</p> <p>A) 味の素とベトナム給食支援 B) 資生堂とBRAC (バングラデシュ農村支援委員会) とのソーシャルビジネス C) 公文とBRAC (バングラデシュ農村支援委員会) とのソーシャルビジネス</p>				
授業計画	<p>第1日 第1回 NHK制作のビデオ等により、問題点と自立支援をめぐる状況を理解する。 第2回 NHK制作のビデオ等により、問題点と自立支援をめぐる状況を理解する。 第3回 NGOによる取り組みの紹介 第4回 NGOによる取り組みの紹介 第5回 バングラデシュ等におけるマイクロクレジットの実施プロセスを検討</p> <p>第2日 第6回 バングラデシュ等におけるマイクロクレジットの実施プロセスを検討 第7回 開発経済学における理論的整理 第8回 開発経済学における理論的整理 第9回 ソーシャルビジネス的視点からの貧困者の自立支援 第10回 ソーシャルビジネス的視点からの貧困者の自立支援</p> <p>第3日 第11回 ソーシャルビジネス的視点からの貧困者の自立支援 第12回 1日目、2日目、3日目の講義を踏まえ、受講者と一緒に議論を行う。 第13回 1日目、2日目、3日目の講義を踏まえ、受講者と一緒に議論を行う。 第14回 1日目、2日目、3日目の講義を踏まえ、受講者と一緒に議論を行う。</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	ムハマド・ユヌス、『ムハマド・ユヌス自伝：貧困なき世界をめざす銀行家』(猪狩弘子訳)、早川書房。ムハマド・ユヌス、『貧困からの自由』(笠原清志監訳)、明石書店。				
参考文献	『マイクロファイナンス事典』(笠原清志監訳)、明石書店。				
その他 (HP 等)					

コミュニティデザインとビジネス科目群

科目コード	OG211	科目名	世界・日本経済図説を読む	科目群	第2群
担当者	田谷 禎三 (タヤ テイゾウ)				
開講日程・時限	秋学期・月曜日・5時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	世界経済と日本経済の概要をさまざまな図表によって理解する。				
授業の内容	主として講義形式で進めるが、2回目以降毎回、前回で取り上げたテーマに関連した簡単な(1-2ページ)レポート(できれば図表を含んだもの)を提出する。また、最後の1-2回(受講者の人数による)の授業では、各自が選んだテーマについてレポート(2-3ページ)を作成して、全員の前で発表する。				
授業計画	<p>第1回 世界経済の輪郭、国際貿易 第2回 国際金融、多極化と地域統合 第3回 指令経済と「南」の市場経済化、人口・食料・エネルギー・資源 第4回 地球環境保全、軍縮の経済と「平和の配当」 第5回 経済危機、世界経済の構造変化 第6回 日本経済発展の軌跡、人口・国土・環境・国富 第7回 食生活と第1次産業、変貌する第2次・第3次産業 第8回 雇用・労働、金融・資本市場 第9回 財政、国際収支 第10回 国民生活(年金・医療・介護)、日本経済の展望 第11回 時事経済問題(金融・財政政策に関する問題、日本経済の先行き) 第12回 受講生による研究発表</p> <p style="text-align: center;">*時事経済問題のテーマについては受講生との話し合いで決める</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	宮崎勇・田谷禎三、『世界経済図説 第3版』、岩波書店。 宮崎勇・本庄真・田谷禎三、『日本経済図説 第4版』、岩波書店。				
参考文献	授業中適宜挙げる。				
その他(HP等)					

コミュニティデザインとビジネス科目群

科目コード	OG260	科目名	暮らしに役立つ経済と金融	科目群	第2群
担当者	坪野谷 雅之（ツボノヤ マサユキ）				
開講日程・時限	春学期・水曜日・4時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	新聞記事を読んで生きた経済と金融の実例をもって、身近な経済と金融の「現象－実体－本質」を分かりやすく解説しながら、臨場感のある暮らしに役立つ授業を展開する。（注）経済学や経営学そのものを教える授業ではありません。				
授業の内容	次のような授業の計画に沿って、Plan-Do-Check-Actを励行し、講義・討論・発表会を柔軟に展開する等、双方向コミュニケーションに工夫する。授業のリアクションペーパー等を使ったフィードバックもタイムリーに行う。また、実務経験豊富な専門家をゲストスピーカーとして招請したり、自由参加の課外活動として「日本銀行」「東京証券取引所」「丸の内視察」等の訪問を行う。				
授業計画	第1回 I. 新聞を読んで考える：①新聞の楽しく効果的な読み方 第2回 ②世界経済と金融の理解：日本・アメリカ 第3回 ③世界経済と金融の理解：欧州・アジア・新興国等 第4回 （グループディスカッションと発表会） 第5回 II. 身近な経済問題を考える：①日本の財政を考える 第6回 ②日本の社会保障を考える 第7回 ③日本の経済界の不祥事件を考える 第8回 （グループディスカッションと発表会） 第9回 III. 金融システムを考える：①世界の金融システム 第10回 ②日本の金融システム ③暮らしと金融の関わり 第11回 （グループディスカッションと発表会） 第12回 IV. 相続と遺言を考える ①相続と相続対策の事例研究＊ 第13回 ②不動産活用から考える相続対策の事例研究＊ 第14回 授業の総括と感想文作成 ＊ゲストスピーカー（信託銀行の財務コンサルタント）				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	授業の中で適宜資料を配布する。				
参考文献	授業の中で適宜紹介する。				
その他（HP等）					

コミュニティデザインとビジネス科目群

科目コード	OG261	科目名	人間学としての経済思想	科目群	第2群
担当者	芳賀 和恵 (ハガ カズエ)				
開講日程・時限	夏期集中 8月2日、3日、6日 (10:00～17:00)			単位数	2単位
備考					
授業の目標	長寿化、その他の様々な社会変化が起こっている現代に生きる私たちにとって、「生き方」を再考することは有意義です。経済学の思想を手がかりにして、自分の「生き方」を模索することを目標とします。				
授業の内容	長寿化に伴い、従来のライフスタイルを見直す必要性、新しいライフスタイルの構築の可能性を考える動きが起こっています。経済学、経営学では、行動主体としての人間の研究がなされてきました。本講では、「新しいことに挑戦する人間像」に注目します。その知見は、人間の生き方への問いに広く答えるものです。授業では、受講生はそれらの知見を参考にして、それぞれが積極的な人生をデザインします。				
授業計画	<p>第1日 第1回 導入と概要、授業の進め方 第2回 「どのように生きているか」を考える 第3回 「(これから) どのように生きたいか」を考える 第4回 ビジョンと Knowing-Doing Gap 第5回 シュンペーターの「企業家」を人間類型として考える</p> <p>第2日 第6回 行動の要素、行動パターンを「企業家」像研究から考える 第7回 私たちを取り巻く環境 第8回 ビジョン (第1日目) の再考 第9回 期待・想定されている役割・能力の動的変化 (「新結合」) 第10回 私たち自身の「新結合」を考える</p> <p>第3日 第11回 私たち自身が持つ行動の可能性と課題を考える 第12回 立教セカンドステージ大学と「生き方」のデザイン 第13回 立教セカンドステージ大学の可能性と意義を考える 第14回 まとめと展望 *ゲストスピーカーの招聘の可能性あり</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	グラットン、L・スコット、A.、2016、『Life Shift』(池村千秋訳)、東洋経済新報社。他。必要箇所を授業時に配布します。				
参考文献	清成忠男、1998、『企業家とは何か』、東洋経済新報社。他。授業中に適宜紹介します。				
その他 (HP 等)	グループワーク等、受講者主体の活動を多く取り入れる予定です。受講状況に応じて、内容や形式に変更や修正を加える可能性があります。				

セカンドステージ設計科目群

科目コード	OG300	科目名	社会老年学	科目群	第3群
担当者	安藤 孝敏（アンドウ タカトシ）				
開講日程・時限	春学期・金曜日・4時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	エイジングの社会的側面から、高齢社会とはいかなる社会であるのかについて、これからの自分自身の生き方と関連させて理解することがこの授業の目標である。				
授業の内容	この講義では、人口の高齢化、高齢期の健康、定年退職、高齢期の人間関係などを取り上げ、わが国における高齢社会の特徴について検討する。そして、社会と個人の高齢化の理解を踏まえて、これからの高齢期のライフスタイルについて考えていく。授業では、テキストと補助資料（映像資料を含む）を用いて講義を行い、受講者には毎回、講義や資料などに関するコメント・感想などのリアクションペーパーの提出を求める。				
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 高齢期を科学する：社会老年学とは？ 第3回 高齢期をみる目：高齢者観 第4回 高齢化社会の到来：高齢化社会の実態 第5回 人口高齢化のメカニズム 第6回 高齢社会の現状1：映像視聴 第7回 高齢期の健康：生活機能 第8回 高齢社会の現状2：映像視聴 第9回 定年退職、就業意欲と職業観 第10回 高齢社会の現状3：映像視聴 第11回 高齢期の人間関係 第12回 高齢期の心理的適応 第13回 多様化するライフスタイル				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	古谷野亘・安藤孝敏編著、2008、『改訂・新社会老年学；シニアライフのゆくえ』、ワールドプランニング。				
参考文献	内閣府編、2017、『高齢社会白書〈平成29年版〉』、日経印刷。				
その他（HP等）	総務省統計局 http://www.stat.go.jp/ 内閣府共生社会政策・高齢社会対策 http://www8.cao.go.jp/kourei/index.html				

セカンドステージ設計科目群

科目コード	OG330	科目名	最後まで自分らしく	科目群	第3群
担当者	小谷 みどり (コタニ ミドリ)				
開講日程・時限	春学期・月曜日・5時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	生ある者(物)の宿命である「死」を医学、民俗学、哲学、社会学、経済学など多角的に俯瞰することで、「残された時間をどう生きるか」を改めて考えるきっかけとしていただきたい。				
授業の内容	<p>オムニバス形式で毎回異なるテーマを取り上げ、授業を進める。死の概念、終末医療、葬送など、死の現状と問題について横断的に学習する。講義だけでなく、実際に最新の施設を見学し、現場の人たちから話を聞かなかで、自分の人生をどう締めくくるかを具体的に考える一助としていただきたい。</p> <p>正解がないテーマゆえ、さまざまな考え方があることを知ったうえで、自分はどうしたいかを考えていただける工夫をしたい。</p>				
授業計画	<p>第1回 多死社会・死を取り巻く社会の状況</p> <p>第2回 死とは何か(死の基準)</p> <p>第3回 死にまつわるタブーや因習の成立</p> <p>第4回 現代人の死生観</p> <p>第5回 尊厳死と安楽死/死の自己決定</p> <p>第6回 お墓～少子化、ジェンダーの観点から</p> <p>第7回 お墓～環境問題の観点から</p> <p>第8回 墓地見学</p> <p>第9回 お葬式～宗教学的、民俗学的観点から</p> <p>第10回 お葬式～社会的、経済学的観点から</p> <p>第11回 納棺の実際</p> <p>第12回 あなたの死後を誰にどう託すか</p>				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
テキスト					
参考文献	<p>小谷みどり、2017、『「ひとり死」時代のお葬式とお墓』、岩波新書。</p> <p>小谷みどり、2016、『ひとり終活』、小学館新書。</p>				
その他(HP等)					

セカンドステージ設計科目群

科目コード	OG180	科目名	心の変革	科目群	第3群
担当者	横山 紘一（ヨコヤマ コウイツ）				
開講日程・時限	春学期・火曜日・4時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	「自分とは一体なにか」「自分はいかに生きるべきか」という人生の二大問題を考察しつつ、どうすれば心を深層から変革して、さわやかに生きることが出来るかを共々考えることを目標とする。				
授業の内容	「心」ほど、自分に身近なものでありながら、とらえどころのないものはない。しかもそのありようによってはこれほど自分と他人とを苦しめ迷わすものはない。この「心」を深層から観察し分析して、その構造と働きを解明した、仏教の根本思想である「唯識思想」を中心にして、加えて人間の心境の高まりを牧人が逃げた牛を探すという物語に譬えた「十牛図」を参考としながら授業を進めていく。				
授業計画	第1回 「なに」「なぜ」「いかに」という三つの問いについて 第2回 とくに「自分」とはなににかについて 第3回 「唯識思想」の概説 第4回 「十牛図」の概説 第5回 表層的な心の解説 第6回 深層的な心の解説 第7回 潜在的な自我執着心について 第8回 深層の根本心について 第9回 深層心を変革する二つの力について 第10回 言葉のはたらきと限界について 第11回 いま・ここになりきって生きる 第12回 現代社会の諸問題について（1） 第13回 現代社会の諸問題について（2） 第14回 唯識思想の現代的意義				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
テキスト	授業時に随時プリント資料を配布する				
参考文献	横山紘一、『阿頼耶識の発見——よくわかる唯識入門』、幻冬舎。 横山紘一、『十牛図入門——「新しい自分」への道』、幻冬舎。				
その他（HP等）					

セカンドステージ設計科目群

科目コード	OG238	科目名	アドラー心理学を实践に活かす	科目群	第3群
担当者	箕口 雅博 (ミグチ マサヒロ)				
開講日程・時限	秋学期・金曜日・5時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	本講義では、アドラー心理学の中核概念である“勇気づけ”と“共同体感覚の育成”をキーワードとして、自己啓発のみならず、対人援助や日常生活における実践に、アドラー心理学をどう活かせるかをともに学ぶことを目的とする。				
授業の内容	アドラー心理学は、オーストリアの精神科医アルフレッド・アドラーが創始した、人間理解と援助のための心理学である。その理論は、個人の主体性を重んじていること、原因にこだわらず未来について考えて行く解決志向であること、人と人とのつながりを大切にしていることなどの特徴から、対人援助や日常生活における実践に幅広く役立つものと考えられる。本講義では、アドラー心理学の理論と実践を体系的かつ体験的に追究していきたい。				
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 アドラー心理学誕生の背景とアルフレッド・アドラーの生涯 第3回 アドラー心理学の現在 第4回 アドラー心理学を理解するための基礎理論(1)～目的論・全体論 第5回 アドラー心理学を理解するための基礎理論(2)～認知論・対人関係論 第6回 アドラー心理学を理解するための基礎理論(3)～主体(自己決定)論 第7回 アドラー心理学を理解するための基礎理論(4)～ライフタスク・ライフスタイル 第8回 アドラー心理学を理解するための基礎理論(5)～共同体感覚 第9回 アドラー心理学の実践(1)～勇気づけの原理 第10回 アドラー心理学の実践(2)～自分と他者を勇気づける 第11回 アドラー心理学の実践(3)～勇気づけのエピソード事例の分析 第12回 アドラー心理学を实践に活かす(1) 勇気づけのワーク① 第13回 アドラー心理学を实践に活かす(2) 勇気づけのワーク② 第14回 まとめ				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
テキスト	レジュメ資料を用いる				
参考文献	岸見一郎、2014、『アドラー心理学実践入門』、ワニ文庫。岩井俊憲、2011、『勇気づけの心理学』、金子書房。ほか、授業のなかで随時紹介する。				
その他 (HP 等)	パワーポイント・ビデオ教材などを用い、グループによる討議・発表、ロールプレイなどを取り入れた多面的な授業を展開していく予定である。				

セカンドステージ設計科目群

科目コード	OG315	科目名	セカンドステージの住まいづくり	科目群	第3群
担当者	甲斐 徹郎 (カイ テツロウ)				
開講日程・時限	夏期集中 8月21日、22日、23日 (10:00～17:00)			単位数	2単位
備考					
授業の目標	自身の「しあわせ」と「健康」とを目的として、自分の住まいを点検し、自己評価できる力を身につけ、その改善計画を立案することを目標とする。				
授業の内容	我々にとっての「しあわせ」と「健康」には暮らしの拠点である住まいのカタチが大きく影響している。たとえば、クーラーに頼らない「涼しさ」や、深部体温を下げない「暖かさ」といった住まいの熱環境は快適性を高め、同時に健康寿命に大きく作用する。また、身近なコミュニティとの関係があり孤立しないことは、「しあわせ」の本質であり、「健康」への影響も指摘されている。この授業では、人生の拠点としての住まいのあり方を考え、その改善のし方を学ぶ。				
授業計画	<p>第1日 第1回 住まいと健康 第2回 クーラーなしでクーラーより快適な住まいの作り方(1) 第3回 クーラーなしでクーラーより快適な住まいの作り方(2) 第4回 健康に大きく影響する冬暖かい住まいの作り方 第5回 孤立しない住まいの作り方</p> <p>第2日 第6回 「しあわせ」の本質を考える 第7回 住まいのカタチとコミュニティの関係 第8回 自分にとってのコミュニティの意味を考える 第9回 コミュニティの暮らしへの活かし方(1) 第10回 コミュニティの暮らしへの活かし方(2)</p> <p>第3日 第11回 コミュニティが形成されるメカニズム 第12回 人生の拠点として自分の住まいをデザインする演習1 第13回 人生の拠点として自分の住まいをデザインする演習2 第14回 受講生による企画発表</p>				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
テキスト	甲斐徹郎、2016、『不動産の価値はコミュニティで決まる』、学芸出版社。				
参考文献	甲斐徹郎、2006、『自分のためのエコロジー』、筑摩書房				
その他 (HP 等)	http://www.teamnet.co.jp/ (特に http://www.teamnet.co.jp/wp/?cat=38) http://www.teamnet.co.jp/wp/?cat=39)				

セカンドステージ設計科目群

科目コード	OG350	科目名	現在（いま）を生きるための健生学	科目群	第3群
担当者	堀 エリカ（ホリ エリカ）				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・4時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	人生80年の現代社会において、大きなライフテーマとなる「最期の瞬間を迎えるまで如何に健やかに生きるか」について、広義な意味における「健康」や「医療」の視点から学ぶ時間を持ち、健やかに生きるための思索を深める。				
授業の内容	<p>私たちが健やかな人生を送るために、日々の生活の中で向かい合うべき処々の課題の中から、本授業においては次の4つに焦点を当て考察を行う。</p> <p>①自らの心身の状態把握と調整 ②家族や周囲の人の心身への理解と寄り添い ③医療への理解と主体的な受け方 ④人生の最終章である「死」についての理解</p>				
授業計画	<p>第1回 年齢哲学（年齢と身体の変化、先人に学ぶ先進的な年齢の捉え方） 第2回 ユーモアのレッスン（生活におけるユーモアと笑いの効用） 第3回 現代若者こころ学（孫・子世代のこころの理解と寄り添い） 第4回 健康づくりのためのセルフヘルスチェック（病気予防と生活習慣） 第5回 病院の選び方とかかり方（選び方のポイント、セカンドオピニオン） 第6回 医療コミュニケーション（納得のいく医療を受けるためのポイント） 第7回 医療の意思決定（インフォームドコンセント、意思決定プロセス） 第8回 生命倫理（尊厳死など） 第9回 「死」とは何か（キューブラー・ロス氏の死に逝く人との対話） 第10回 死の準備教育（遺される（た）人に寄り添うための心理アプローチ） 第11回 死の疑似体験ワーク 第12回 予備1 第13回 予備2 第14回 まとめ</p> <p>*時事問題やゲスト講師招聘等により、若干の計画変更の可能性あり</p>				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
テキスト	講義中にプリント配布				
参考文献	<p>講義中に適宜紹介 堀エリカ、2012、『穏やかで幸せな死を迎えるための23の方法』、中経出版。</p>				
その他（HP等）	講師への連絡 erica@rikkyo.ac.jp				

セカンドステージ設計科目群

科目コード	OG138	科目名	食と健康の教養学	科目群	第3群
担当者	松山 伸一（マツヤマ シンイチ）				
開講日程・時限	春学期・水曜日・5時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	食と健康にまつわる情報やサービスが身のまわりに氾濫しており、場当たりの対応していると禍根を残すことになる。各自が本当に必要なものを選び出し、有意義に活用できるよう、食と健康に関する実践的な教養を身につける。				
授業の内容	現在、ヒトについて科学的に解明されていることは1%にも満たない。その断片的な知見をつなぎ合わせて「食と健康の科学」は成り立っているの、真偽や良し悪しを見分けるのはむずかしい。この授業では、科学的根拠があるからと盲信したり、未解明だからと切り捨てたりすることなく、そこに潜む本質的な問題を掘り起こし、どんな考え方があるのか、どのような選択ができるのかを様々な具体例から学ぶ。科学的な予備知識がなくても理解できる内容である。				
授業計画	第1回 はじめに：「食と健康の科学」は猫の目のようにコロコロ変わる 第2回 食①：失礼ですが、栄養は足りていますか？ 第3回 食②：今からでも遅くない「シニア栄養学」のすすめ 第4回 食③：バランスのよい食事の落とし穴 第5回 食④：ヘルシーな食べ物が毒になる不思議 第6回 食⑤：敵だと思っているものは味方かもしれない 第7回 食⑥：無理が通って道理が引っ込む食の世界 第8回 健康①：幽霊より怖いダイエットの話 第9回 健康②：なぜか生活習慣に気をつけても健康になれない人たち 第10回 健康③：百寿者の「健康の秘訣」をまねして百寿者になろう！ 第11回 健康④：「老化のリスク」より「長寿のリスク」 第12回 健康⑤：そもそも、薬で病気を治すことができるのか？ 第13回 健康⑥：先生、私って本当に病気ですか？ 第14回 まとめ：科学を装った情報とサービス vs 「食と健康の教養学」				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	毎回、プリントを配布する				
参考文献	単元ごとに参考図書を紹介する				
その他（HP等）					

セカンドステージ設計科目群

科目コード	OG105	科目名	健康長寿とアンチエイジング	科目群	第3群
担当者	米井 嘉一（ヨネイ ヨシカズ）				
開講日程・時限	夏期集中9月3日、4日、5日（10:00～17:00）			単位数	2単位
備考					
授業の目標	人間の成長してゆく過程、特に成熟し老化する仕組みについて基本事項を学び、健康長寿を達成するための医学的アプローチについて解説。身体の老化度や老化を促進する危険因子とそれらを評価するバイオマーカー・測定方法について学ぶ。				
授業の内容	老化について機能年齢（筋肉、血管、神経、内分泌系（ホルモン）、骨）と危険因子（免疫ストレス、酸化ストレス、心身ストレス、生活習慣、糖化ストレス）にわけて考える。その概念を学び、身体に及ぼす影響について考える。その知識をもとに日常の健康増進をして健康長寿を達成することがセカンドステージに重要である。そのために運動療法・食事療法・精神療法・機能性食品（サプリメント）についての基本的知識も体得してもらいたい。				
授業計画	<p>第1日 第1回 はじめに 講義内容・レポート課題揭示 第2回 老化とは 第3回 己を知る 老化度の判定 第4回 骨、血管、筋肉、内分泌系（ホルモン）、神経年齢 第5回 食育 アンチエイジングな生活を身に付けよう</p> <p>第2日 第6回 内分泌の変化、酸化作用、糖化（メイラード反応） 第7回 体育 抗加齢（アンチエイジング）指導の目的 第8回 症例の検討、アンチエイジング医療とは 第9回 知育 老化の哲学 第10回 老後の意義、老化のメカニズムを追及する</p> <p>第3日 第11回 アンチエイジングな生活習慣、精神療法 第12回 アンチエイジングと芸術 第13回 レポート提出 ディスカッション 第14回 まとめ</p>				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
テキスト	米井嘉一、2011、『抗加齢医学入門』第2版、慶應義塾大学出版会。				
参考文献					
その他（HP等）	http://www.yonei-labo.com				

セカンドステージ設計科目群

科目コード	OG360	科目名	高齢者の生活と介護保険	科目群	第3群
担当者	橋本 正明 (ハシモト マサアキ)				
開講日程・時限	夏期集中9月6日、7日、10日 (10:00～17:00)			単位数	2単位
備考					
授業の目標	私達の社会の大きな課題は高齢者の生活の在り様と介護問題だと言える。課題の認識と対応する施策としての介護保険を学び、その内容、利用方法を理解し、介護施設の現場でサービスの実際に触れ自分ごととしての介護を考える。				
授業の内容	超高齢社会の状況を様々なデータから読み解き、超高齢社会の理解を深める。その上で視聴覚教材から実際の高齢期の生活課題を自分ごととして把握する。 また介護問題に対応する介護保険をよく理解し、保険者ごとの相違や地域の問題としての対策をグループディスカッションから学ぶ。3日目には、総合的な介護施設でのフィールドワークを行う。実際のサービス利用者やスタッフのお話を伺い、また実際の体験を通して介護についての理解を深める。				
授業計画	<p>第1日 第1回 高齢者福祉とは ～幸せな老いを考える～ (導入)</p> <p>第2回 わが国の超高齢社会の実装と介護問題 配布資料参照</p> <p>第3回 最悪の介護問題 介護殺人事件から (DVD 使用)</p> <p>第4回 介護保険の実際 (テキスト使用)</p> <p>第5回 同上</p> <p>第2日 第6回 私にとっての「介護」(グループワーク)</p> <p>第7回 わが町の「介護保険」(グループワーク)</p> <p>第8回 ケアを学ぶ (テキスト使用)</p> <p>第9回 同上 介護施設と働くスタッフ (DVD 使用)</p> <p>第10回 介護最後の砦、特養ホームの実際 ゲストスピーカー</p> <p>第3日 第11回 フィールドワーク 高齢者総合福祉施設のガイダンス</p> <p>第12回 見学と介護技術の学び</p> <p>第13回 利用者との交流</p> <p>第14回 スタッフとの懇談</p> <p>*フィールドワークは必須、仔細は授業で資料配布</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	『介護保険とは』改定第13版、東社協。 橋本正明監修、2014、『介護術』、西東社。				
参考文献	春日キスヨ、2011、『変わる家族と介護』、講談社新書 保坂隆、2011、『人生の整理術』朝日新書				
その他 (HP 等)	受講前に至誠ホームHPを閲覧の事。受講前レポート「私にとっての介護」を受講時提出。40字×40行 (タイトル・学生番号・氏名含む)。自分の居住自治体の介護保険パンフレットをお持ちください。				

セカンドステージ設計科目群

科目コード	OG380	科目名	障害者とノーマライゼーション	科目群	第3群
担当者	河東田 博 (カトウダ ヒロシ)				
開講日程・時限	秋学期・金曜日・4時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	ノーマライゼーションの原理は、「障害のある人たちを障害とともに受容し、彼らにノーマルな生活条件を提供すること」と定義づけされている。この原理がなぜ生まれ、どう発展してきたのか、今後どう展開されていくのかを展望する。				
授業の内容	障害のある人たちはこれまでどう生きてきたのか、彼らの苦難の歴史を振り返る。また、ノーマライゼーションの原理がなぜ生まれたのか、その後どのように発展してきたのか、この原理は今後どう展開されていくのか、などを検討する。さらに、私たちが目指すのはノーマライゼーションという言葉のいらない共生社会だが、そのためにはどうしたらよいのか、共生社会を実現することにより障害のある人たちの生き方はどのように変化していくのかを展望する。				
授業計画	第1回 1960年代までの障害のある人たちはどう生きてきたのか 第2回 1970年代以降の障害のある人たちはどう生きてきたのか 第3回 ノーマライゼーション原理誕生秘話と発展の概略 第4回 ノーマライゼーション原理を生んだ北欧の社会・環境 第5回 ノーマライゼーション原理の先達バンクー・ミケルセン 第6回 ノーマライゼーション原理の先達ニリエ 第7回 ノーマライゼーション原理の先達ヴォルフエンスベルガー 第8回 ノーマライゼーション原理と自己決定 第9回 ノーマライゼーション原理と当事者参画 第10回 ノーマライゼーション原理とパーソナルアシスタンス制度 第11回 ノーマライゼーション原理と性・結婚 第12回 ノーマライゼーションという言葉のいらない共生社会を目指して 第13回 脱ノーマライゼーションと多元的共生 第14回 まとめ *第13回目か第14回目にゲストスピーカーをお呼びする予定				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	河東田博、2017、『障害者福祉の過去・現在・未来』、浦和大学。(初回授業時配布)				
参考文献	河東田博、2009、『ノーマライゼーション原理とは何か』、現代書館。				
その他 (HP 等)	新聞等各種メディアの福祉情報に目を通しておくこと。				

セカンドステージ設計科目群

科目コード	OG100	科目名	セカンドステージと市民生活	科目群	第3群
担当者	渡辺 豊博（ワタナベ トヨヒロ）				
開講日程・時限	春学期・金曜日・5時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	「今までに蓄積してきた専門的な知識を地域社会で活用したい、新たな人的交流の場をつくりたい」など、さらなる発展的な市民生活を過ごすための多様なヒントや仲間づくり、社会貢献の場づくりなどを再発見することを目標とする。				
授業の内容	本講座では、受講生に対して、セカンドステージにおける社会的な役割や新たな市民生活のあり方、生きがい・やりがいのある場づくりの手法などを再発見するためのヒントや多種多様な社会参加のケース・ステージに関わる情報提供を行うとともに、日常的な市民生活の中で役立つ市民活動やNPO活動の基礎知識を学ぶ。特に、NPO法人グラウンドワーク三島での現場体験や英国グラウンドワーク・社会的企業などへの海外研修など、先進的なノウハウの習得機会を提供する。				
授業計画	<p>第1回 講義のガイダンス、自己紹介、学びたいポイントの確認 第2回 現在の市民生活の現状と課題、今後のセカンドステージを考える 第3回 イギリスやアメリカの市民生活の実態と先進性の事例紹介 第4回 国内での市民生活の先進的な事例紹介 第5回 NPO活動・市民活動の実態と課題、今後の方向性 第6回 NPO・NPO法の基礎知識を学ぶ 第7回 グラウンドワーク三島の実践的なノウハウを学ぶ 第8回 グラウンドワーク三島の多様な地域協働による活動事例を学ぶ 第9回 英国グラウンドワークのパートナーシップによるまちづくりを学ぶ 第10回 社会的企業による新たなビジネスのスタイルとノウハウを学ぶ 第11回 NPOによる地域ビジネス創業へのノウハウと取り組みを学ぶ 第12回 中高年が中心となった多様な市民活動の事例紹介 第13回 新たな市民生活の多様なあり方を考えるワークショップ、まとめ</p> <p style="text-align: center;">*希望者によるグラウンドワーク三島への現場研修と体験を開催、 また、8月下旬に実施予定の英国スタディツアーへの参加</p>				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価				
テキスト	渡辺豊博、『失敗しないNPO』、春風社。 渡辺豊博、『先生、NPOって儲かりますか？』、春風社。				
参考文献	渡辺豊博、『清流の街がよみがえった』、中央法規。 渡辺豊博、『共助社会の戦士たち』、静岡新聞社。 その他は授業内で便宜提示する。				
その他（HP等）	NPO法人グラウンドワーク三島のHP				

セカンドステージ設計科目群

科目コード	OG306	科目名	俗世間と認識論	科目群	第3群
担当者	北山 晴一 (キタヤマ セイイチ)				
開講日程・時限	秋学期・金曜日・4時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	日常茶飯の事柄と世界の現れ方と、その両方を見渡すことは容易ではないが、異なる見方の存在を理解することを通して、世の中を少しでも住みやすく、また自らも生きやすくなる道筋をみなで考えて行きたい。結論よりも議論と笑いが大事。				
授業の内容	消費社会に特有の結論を急ぐ思考習慣、あるいは A+B= お金が儲かる、という思考スタイルからいかに抜け出るか。経済効率ではなく、社会的あるいは人間関係的にプラスになる思考へといかにシフトしていくか。それを考える方途として、この授業では、できるだけ先人たちの思考や行動にも触れたいが、同時にそうした先人たちの例に囚われることなく、皆さん一人ひとりがこれまで培ってきた豊富な知識と知恵、経験を素材に、ともに語り合い聞きあうことを大切にしたい。				
授業計画	第1回 序論：俗世間とは何か、認識論とは何か 第2回 総論1：「浅草」から見えてくるもの～寄席人気と社会の仕組み 第3回 総論2：シャレの魅力と現代思想～ものの力とことばの力について 第4回 各論1：理解すること、わかること、わかりあうこと 第5回 各論2：旅すること、そこで暮らすこと、「よそ者」であること 第6回 各論3：食べ物、食べる人、食べること、ともに食べること 第7回 各論4：欲望とは何か 第8回 各論5：自分とは何か、他者とは誰か 第9回 各論6：皮膚と境界と身体と 第10回 各論7：聖なるものと美なるもの 第11回 各論8：生きること、死ぬこと 第12回 各論9：愛すること 第13回 各論10：こどものいる世界 第14回 総論：あらためて俗世間と認識論 *各回の順番や内容は必要に応じて変更の可能性がある				
成績評価方法	平常点（リアクションペーパーを含む）による評価				
テキスト	レジュメ資料（授業時に配布）を用いる				
参考文献	特に指示はしないが、ジンメル、1999、『ジンメル・コレクション』、ちくま学芸文庫、および夏目漱石、1985、『それから』、新潮文庫、などは強くお勧め。				
その他（HP等）					

セカンドステージ設計科目群

科目コード	OG302	科目名	「だまし」と「ウソ」の心理学	科目群	第3群
担当者	香山 リカ (カヤマ リカ)				
開講日程・時限	夏期集中 8月23日、24日、28日 (10:00～17:00)	単位数	2単位		
備考					
授業の目標	精神医学や心理学の基本的知識を学び、それを応用しながら、いま社会で問題になっている「だまし」や「ウソ」の仕組みを知り、見抜けるようになる。				
授業の内容	世間を騒がせる詐欺、虚言、ねつ造に関する事件、あるいは悪徳商法やカルト宗教などを具体的に取り上げながら、なぜ人はだまされるのか、ウソをつくのか、そしてどうすればそれらから身を守るのかについて、精神医学や心理学の知識を用いて解説を行う。				
授業計画	<p>第1日 第1回 人が「信じる」とはどういうことなのか 第2回 「だまし」の心理学～① 詐欺 第3回 「だまし」の心理学～② 悪徳商法とカルト宗教 第4回 「だまし」の心理学～③ 洗脳とマインドコントロール 第5回 「だまし」の心理学～④ プロバガンダ</p> <p>第2日 第6回 「ウソ」の心理学～① 空想虚言壁とミュンヒハウゼン症候群 第7回 「ウソ」の心理学～② 自己愛とウソ 第8回 「ウソ」の心理学～③ 虚偽自白という問題 第9回 「ウソ」の心理学～④ 妄想とウソとの違い 第10回 どうすればだまされないのか</p> <p>第3日 第11回 どうすればウソを見抜けるか 第12回 ディスカッション① 第13回 ディスカッション② 第14回 まとめ</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト					
参考文献					
その他 (HP 等)					

セカンドステージ設計科目群

科目コード	OG142	科目名	セカンドステージを楽しむ詩心・気心	科目群	第3群
担当者	渡辺 信二 (ワタナベ シンジ)				
開講日程・時限	秋学期・木曜日・4時限			単位数	2単位
備考					
授業の目標	セカンドステージを楽しむには、心身の健康が必須です。精神の滋養のために、良い詩を読み、時には詩作し、常に心を清新に保つ。身体の健康には、様々な気功を無理ない範囲で実践する。結果、各自の心身に資する最適な健康法を見出してゆく。				
授業の内容	このクラスは各回、詩心と気心を涵養する。『養生訓』の一節「古人は詠歌・舞踏して血脉を養ふ。導引・按摩して気をめぐらすがごとし」は、芸術の手習いが導引(=気功)と同様だと主張する。このクラスでも毎回、前半は詩を読み、時には詩を書き、後半は、東洋医学の基礎知識を確認した後、約20分の外丹靈動功を中心に気功の実践を行う。なお、高橋輝暁先生を招いて西洋の「気」に関する講義を一度受ける。また、鍼灸師・気功師の稲川依子氏をゲストパーフォーマーとして時折招く予定あり。できれば、アシスタントも予定します。				
授業計画	<p>第1回 授業紹介。呼吸法(1)。14経絡(1)。外丹靈動功その他。</p> <p>第2回 初恋の詩。呼吸法(2)。14経絡(2)。外丹靈動功その他。</p> <p>第3回 愛の詩。呼吸法(3)。14経絡(3)。外丹靈動功その他。</p> <p>第4回 檸檬の詩。呼吸法(4)。14経絡(4)。外丹靈動功その他。</p> <p>第5回 林檎の詩。指ヨガ(1)。14経絡(5)。外丹靈動功その他。</p> <p>第6回 犬の詩。指ヨガ(2)。14経絡(6)。外丹靈動功その他。</p> <p>第7回 妻の詩。指ヨガ(3)。14経絡(7)。外丹靈動功その他。</p> <p>第8回 夫の詩。指ヨガ(4)。14経絡(8)。外丹靈動功その他。</p> <p>第9回 子供の詩。指ヨガ(5)。14経絡(9)。外丹靈動功その他。</p> <p>第10回 鹿の詩。14経絡(10)。華佗の五禽戯(1)。外丹靈動功その他。</p> <p>第11回 猿の詩。14経絡(11)。華佗の五禽戯(2)。外丹靈動功その他。</p> <p>第12回 熊の詩。14経絡(12)。華佗の五禽戯(3)。外丹靈動功その他。</p> <p>第13回 虎の詩。14経絡(13)。華佗の五禽戯(4)。外丹靈動功その他。</p> <p>第14回 鳥の詩。14経絡(14)。華佗の五禽戯(5)。外丹靈動功その他。</p> <p>*変更や順序入替があり得る。例えば五禽戯を早めるかもしれない</p>				
成績評価方法	平常点およびレポート試験の総合評価。期末レポートの題は、「私の健康法」(日本語3600字)の予定です。原則、メール添付書類にて提出する。				
テキスト	テキストは指定しない。必要に応じて、クラスで資料を配布する。				
参考文献	『アメリカ名詩選』、岩波文庫、その他、詩集一般。『養生訓』(WEBでも可)。				
その他(HP等)	皆さんと一緒に厳しくも楽しく詩心を養い、気を練りましょう。				

必修

科目コード	OG070	科目名	オムニバス講義「学問の世界」	必修基幹科目																																													
開講日程・時限	春学期・木曜日・4時限			単位数 2単位																																													
備考	本科必修／専攻科選択科目																																																
授業の目標と内容	ゼミナール担当教員が輪番で、それぞれ専門とする学問をその営みの意義と関連づけて語ります。そこには、知性と教養に裏打ちされたセカンドステージをデザインしてゆく上でのヒントがあるはずで、おのずと知的視野が広がり、シニアに相応しい教養が身につくはずで、加えて修了生とともに活動する社会貢献活動サポートセンター登録研究会の報告も折り込まれます。また、本講義は各ゼミの枠を超えて、同期生全員が一堂に会する貴重な場ともなります。																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>テーマ</th> <th>担当者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 4/12</td> <td>科目の概要 古典文学を読み解く</td> <td>加藤 睦</td> </tr> <tr> <td>第2回 4/19</td> <td>多様なキャンパスライフを楽しく有意義に</td> <td>坪野谷雅之</td> </tr> <tr> <td>第3回 4/26</td> <td>郊外国家アメリカと環境思想</td> <td>野田 研一</td> </tr> <tr> <td>第4回 5/10</td> <td>アフリカ・アジアでフィールドワークする</td> <td>栗田 和明</td> </tr> <tr> <td>第5回 5/17</td> <td>社会貢献活動サポートセンター研究会の活動報告Ⅰ</td> <td>坪野谷雅之</td> </tr> <tr> <td>第6回 5/24</td> <td>社会貢献活動サポートセンター研究会の活動報告Ⅱ</td> <td>坪野谷雅之</td> </tr> <tr> <td>第7回 5/31</td> <td>論文作成の心得</td> <td>加藤 睦</td> </tr> <tr> <td>第8回 6/7</td> <td>日米比較から見た市民意識</td> <td>渡辺 信二</td> </tr> <tr> <td>第9回 6/14</td> <td>なぜ、いま、イースター島研究なのか</td> <td>鈴木 正男</td> </tr> <tr> <td>第10回 6/21</td> <td>モダニズムの文学と芸術</td> <td>千石 英世</td> </tr> <tr> <td>第11回 6/28</td> <td>ものの世界と言葉の世界</td> <td>北山 晴一</td> </tr> <tr> <td>第12回 7/5</td> <td>つながりの豊かさと幸福</td> <td>成田 康昭</td> </tr> <tr> <td>第13回 7/12</td> <td>経済学って何だろう？その歴史と基本的考え方</td> <td>黒木 龍三</td> </tr> <tr> <td>第14回 7/19</td> <td>契約と社会</td> <td>野澤 正充</td> </tr> </tbody> </table>				テーマ	担当者	第1回 4/12	科目の概要 古典文学を読み解く	加藤 睦	第2回 4/19	多様なキャンパスライフを楽しく有意義に	坪野谷雅之	第3回 4/26	郊外国家アメリカと環境思想	野田 研一	第4回 5/10	アフリカ・アジアでフィールドワークする	栗田 和明	第5回 5/17	社会貢献活動サポートセンター研究会の活動報告Ⅰ	坪野谷雅之	第6回 5/24	社会貢献活動サポートセンター研究会の活動報告Ⅱ	坪野谷雅之	第7回 5/31	論文作成の心得	加藤 睦	第8回 6/7	日米比較から見た市民意識	渡辺 信二	第9回 6/14	なぜ、いま、イースター島研究なのか	鈴木 正男	第10回 6/21	モダニズムの文学と芸術	千石 英世	第11回 6/28	ものの世界と言葉の世界	北山 晴一	第12回 7/5	つながりの豊かさと幸福	成田 康昭	第13回 7/12	経済学って何だろう？その歴史と基本的考え方	黒木 龍三	第14回 7/19	契約と社会	野澤 正充	<p>*専攻科生が受講する場合は、講義内容が前年度と同じものがあることに留意。</p>
	テーマ	担当者																																															
第1回 4/12	科目の概要 古典文学を読み解く	加藤 睦																																															
第2回 4/19	多様なキャンパスライフを楽しく有意義に	坪野谷雅之																																															
第3回 4/26	郊外国家アメリカと環境思想	野田 研一																																															
第4回 5/10	アフリカ・アジアでフィールドワークする	栗田 和明																																															
第5回 5/17	社会貢献活動サポートセンター研究会の活動報告Ⅰ	坪野谷雅之																																															
第6回 5/24	社会貢献活動サポートセンター研究会の活動報告Ⅱ	坪野谷雅之																																															
第7回 5/31	論文作成の心得	加藤 睦																																															
第8回 6/7	日米比較から見た市民意識	渡辺 信二																																															
第9回 6/14	なぜ、いま、イースター島研究なのか	鈴木 正男																																															
第10回 6/21	モダニズムの文学と芸術	千石 英世																																															
第11回 6/28	ものの世界と言葉の世界	北山 晴一																																															
第12回 7/5	つながりの豊かさと幸福	成田 康昭																																															
第13回 7/12	経済学って何だろう？その歴史と基本的考え方	黒木 龍三																																															
第14回 7/19	契約と社会	野澤 正充																																															
成績評価方法	平常点による評価																																																
テキスト	特に使用しない。																																																
参考文献	必要に応じて講義の中で紹介する。																																																
その他（HP等）																																																	

必修

科目コード	OG400	科目名	本科ゼミナール・修了論文	必修基幹科目	
科目コード	OG500	科目名	専攻科ゼミナール・修了論文		
開講日程・時限	通年 木曜日・5 時限 (木曜日クラス)			単位数	本 科 4 単位
	通年 金曜日・5 時限 (金曜日クラス)			単位数	専攻科 8 単位
備考	本科および専攻科ともに必修				
ゼミナールの目的と内容	ゼミナール活動は、これまでの人生経験を含めて各受講生が持っている知的な潜在能力を引き出す共同作業といえます。本科も専攻科ともに、受講生はいずれかのゼミナールに所属します。ゼミナールでは、受講生が学習の主体となり、修了論文の作成を通じて、新たなセカンドステージ・ライフに乗り出す自信を培います。担当教員の役割は、助言・調整・提案等によって受講生の主体的な学習をサポートするものです。あくまで受講生の自主的・主体的活動が基本です。そのために、教員の出席する本ゼミと受講生だけで運営する自主ゼミとが交互に実施され、クラスごとの特色ある運営により、受講生相互の密な繋がりを構築します。それをネットワークの核として、セカンドステージ大学修了後の活動にも活かしてください。				
修了論文の作成	修了論文の作成方法には、共同研究の A 方式と B 方式、個人研究方式があります。いずれにおいても、セカンドステージ・ライフを見据えて自分たちが関心のあるテーマを発掘し、自主的な調査研究に従事します。論文は自分相手の私的なモノローグではなく、他者とのコミュニケーションをはかるひとつの形式ですから、修了論文も公開を前提として執筆します。そのために、論文作成の中間段階では、研究発表と討論を通じて、クラスの仲間の意見を聴き、質疑応答を重ねることが大切です。それが、さまざまな観点からさまざまな問いを形成し、意見の違う人が納得できるように論じるための糧となって、研究のさらなる深化と発展にも繋がるはずです。講義科目の聴講や課外活動への参加の経験なども活かせるでしょう。その学習の集大成というべき修了論文において、自分たちで選んだ課題にチャレンジする達成感は格別です。その執筆は、課程を修了するために必修であり、修了後のセカンドステージ・ライフを満喫する第一歩でもあります。				
担当教員	本 科	木曜日	黒木龍三、鈴木正男、成田康昭、野田研一、渡辺信二		
		金曜日	北山晴一、栗田和明、千石英世		
	専攻科	木曜日	上田恵介、加藤睦、高橋輝暁、坪野谷雅之、平賀正子		
成績評価方法	平常点による評価				
テキスト	特に使用しない。				
参考文献	必要に応じて講義の中で紹介する。				
その他 (HP 等)					